

# 第1章 都市構造の評価

## 1. 都市構造の評価

### (1) 都市構造評価の方法

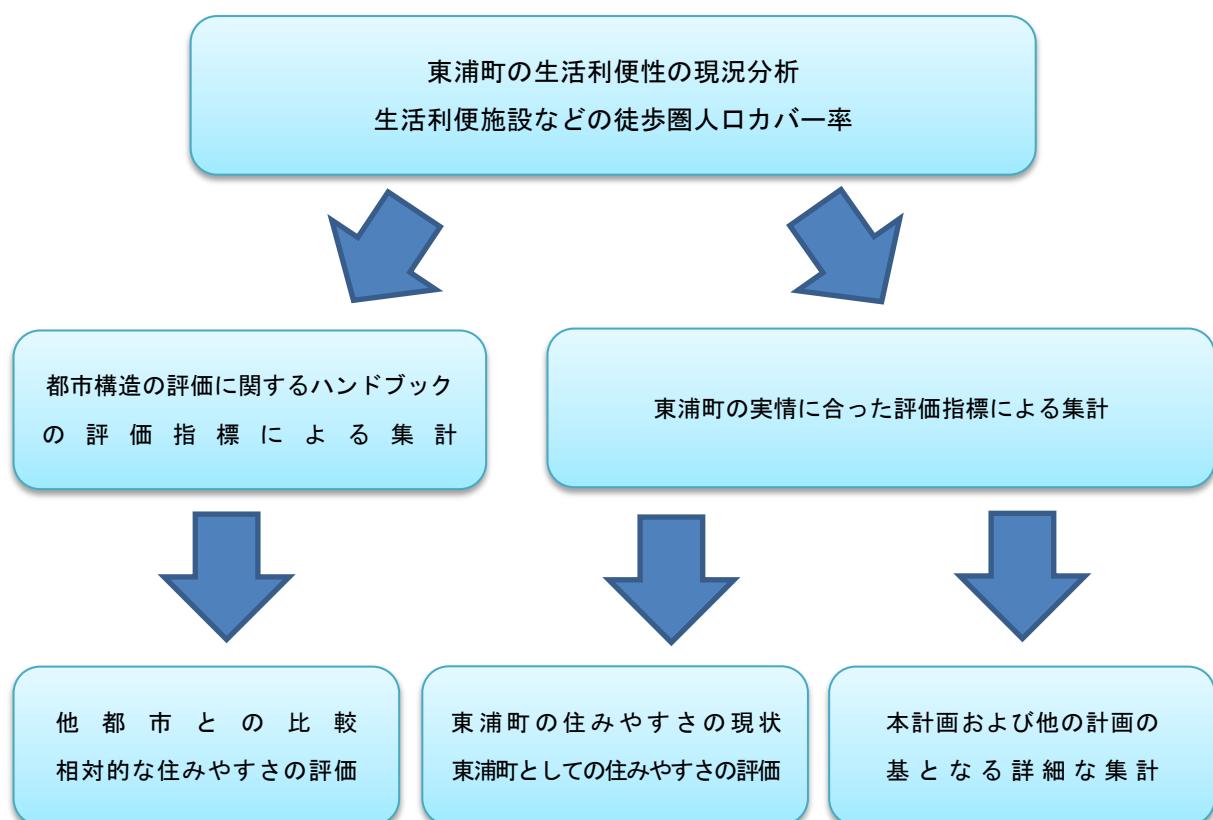
これからのまちづくりは、日常生活に必要なまちの機能が住まいの身近なところに集まり、住民が徒歩または公共交通によりこれらのまちの機能や生活利便施設などにアクセスできるなど、『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』の考え方で進めていくことが重要です。

国土交通省では、都市構造の形状など外形的な側面から都市のコンパクトさを評価する『都市構造の評価に関するハンドブック』(平成 26 年 8 月) (以下「ハンドブック」といいます。) がまとめられました。このハンドブックには、公共交通や生活利便施設などの徒歩圏人口カバー率を都市の規模別などにより集計されています。

本町における生活利便施設などへのアクセス状況の現況を把握するために、徒歩圏人口カバー率の集計を行います。集計にあたっては、他都市との比較により相対的な住みやすさを評価するために、ハンドブックと同様の評価指標によるものと、本町としての住みやすさを評価するために、本町の実情を勘案した評価指標によるものの 2 種類の集計を行います。また、本町の実情を勘案した評価は、本計画策定および今後策定される他の計画の基となるよう詳細に行います。なお、評価の時点は平成 27 年 1 月とします。

※比較するハンドブックの他都市の数値は平成 19 年から 25 年のデータを基に評価したものです。

※上記の数値は人口 10 万人以上の都市を対象に集計されています。



## 2. 公共交通（鉄道・バス）

### （1）町全体の公共交通路線の徒步圏人口カバー率

#### 1) 他都市との比較

基幹的公共交通路線の徒步圏人口カバー率の算定の評価指標として、鉄道駅は一般的な徒步圏半径 800m、バス停は誘致距離を配慮して徒步圏半径 300mとしています。また、基幹的公共交通路線は、1日 30 本以上の運行頻度の鉄道路線およびバス路線としています。（ハンドブックより）

本町において基幹的公共交通路線は、JR 武豊線（大府駅、尾張森岡駅、緒川駅、石浜駅、東浦駅）および名鉄河和線（八幡新田駅、巽ヶ丘駅）が該当します。バス路線は「知多乗合」と町運行バスの「う・ら・ら」（以下「う・ら・ら」といいます。）がありますが、1日 30 本以上運行されていないため対象外とします。対象となる 7 駅の徒步圏（800m）のカバー人口は、表 1-1 のとおり 25,819 人で、カバー率は 51.8%となっています。

他都市と比較すると、本町の基幹的公共交通路線の徒步圏人口カバー率は、表 1-2 のとおり人口概ね 30 万人の地方都市の平均より高く、概ね 50 万人の地方都市の平均では約 6 ポイント下回っています。人口規模の大きい都市ほどカバー率が高い傾向であることからみると、人口約 5 万人の本町はカバー率が高い都市といえます。

（7 頁 図 1-1 基幹的公共交通路線（鉄道駅）参照）

表 1-1 基幹的公共交通路線の徒步圏人口カバー率

対象駅	町総人口(人)	カバー人口(人)	人口カバー率(%)
JR武豊線：大府駅、尾張森岡駅、緒川駅、石浜駅、東浦駅 名鉄河和線：八幡新田駅、巽ヶ丘駅	49,800	25,819	51.8

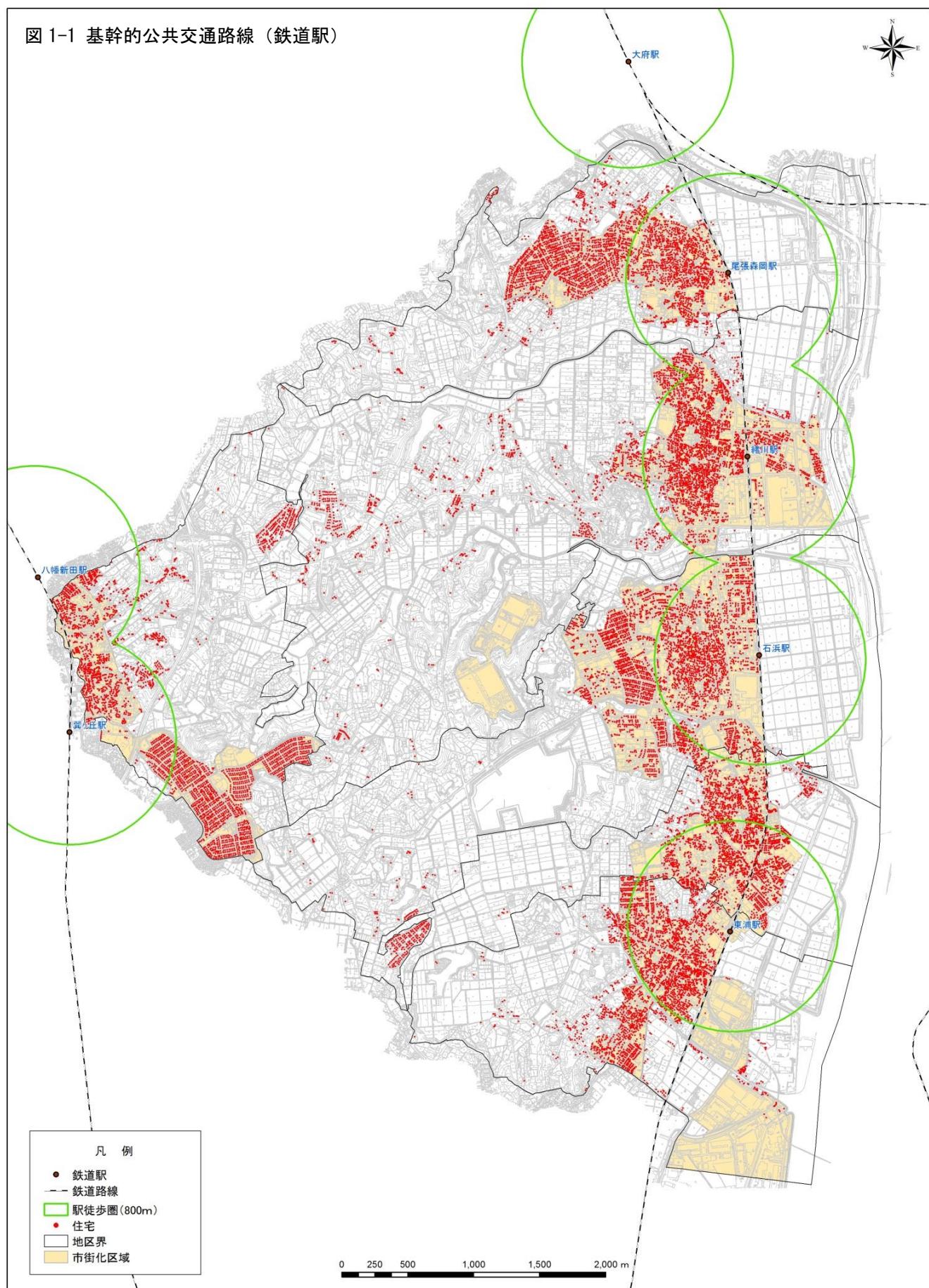
人口資料：平成 22 年国勢調査

表 1-2 各都市等の基幹的公共交通路線の徒步圏人口カバー率

都市の種別	人口カバー率(%)	人口規模(人)
全国平均	55	
三大都市圏平均	66	
地方都市圏平均	72	
人口概ね 50 万人	58	
人口概ね 30 万人	40	
富山市	40.5	421,890
熊本市	74.7	734,474
豊橋市	56.7	376,665
豊川市	48.5	181,928
安城市	50.0	178,691
西尾市	49.8	165,298
小牧市	57.6	147,132
刈谷市	52.4	145,781
稻沢市	44.5	136,442
瀬戸市	59.4	132,224
半田市	47.7	118,828
東海市	69.2	107,690
名古屋市	88.9	2,263,894
東浦町	51.8	49,800

資料：国土交通省（東浦町以外）

図 1-1 基幹的公共交通路線（鉄道駅）



## 2) 東浦町の現状

1) ではハンドブックの評価指標に基づき、対象とならないバス路線を除いて鉄道駅を対象に徒歩圏人口カバー率を算出しました。

しかし、評価指標の「1日あたり30本以上の運行頻度」は「概ねピーク時片道3本以上」に相当するとの考えにより定められたものであり、「知多乗合」や「う・ら・ら」は1日あたり30本以上の運行本数は無いものの、緒川駅東口よりピーク時の午前8時台4本、9時台3本運行されていることから、基幹的公共交通路線に準ずる公共交通路線ととらえることも可能です。

そのため、鉄道駅（JR武豊線、名鉄河和線）とバス停（「知多乗合」、「う・ら・ら」）を含めた町全体の公共交通徒歩圏の人口カバーをみると、表1-3のとおり徒歩圏カバー人口45,595人、徒歩圏人口カバー率は91.6%となります。この値はバスの運行本数の違いはあるものの、表1-2に示すように最もカバー率が高い名古屋市を上回るものです。

(9頁 図1-2 公共交通路線（鉄道駅・バス停）参照)

バス停のみの徒歩圏人口については、表1-3のとおり徒歩圏人口カバー率は82.4%となっています。町内の住宅が立地している地区の多くをカバーしていますが、住宅団地の一部や既成市街地の一部においては圏外となっている地区があります。

(10頁 図1-3 公共交通路線（バス停）参照)

表1-3公共交通路線の徒歩圏人口カバー率

対象路線	町総人口(人)	カバー人口(人)	人口カバー率(%)
JR武豊線、名鉄河和線およびバス路線	49,800	45,595	91.6
JR武豊線、名鉄河和線	49,800	25,819	51.8
バス路線	49,800	41,024	82.4

人口資料：平成22年国勢調査

また、市街化区域と市街化調整区域について、それぞれの徒歩圏人口を集計し、市街化区域内の徒歩圏人口の状況を把握します。

さらに、各鉄道駅別、バス路線別に徒歩圏人口および市街化区域の面積を集計し、効率的な整備を行うための優先順位を検討する資料とします。

その結果を11～13項に以下の項目でまとめています。

- ①市街化区域、市街化調整区域別の公共交通路線の徒歩圏人口カバー率と面積カバー率
- ②鉄道駅別徒歩圏の人口と市街化区域、市街化調整区域別面積の状況
- ③バス路線別徒歩圏の人口と市街化区域、市街化調整区域面積の状況

図 1-2 公共交通路線（鉄道駅・バス停）

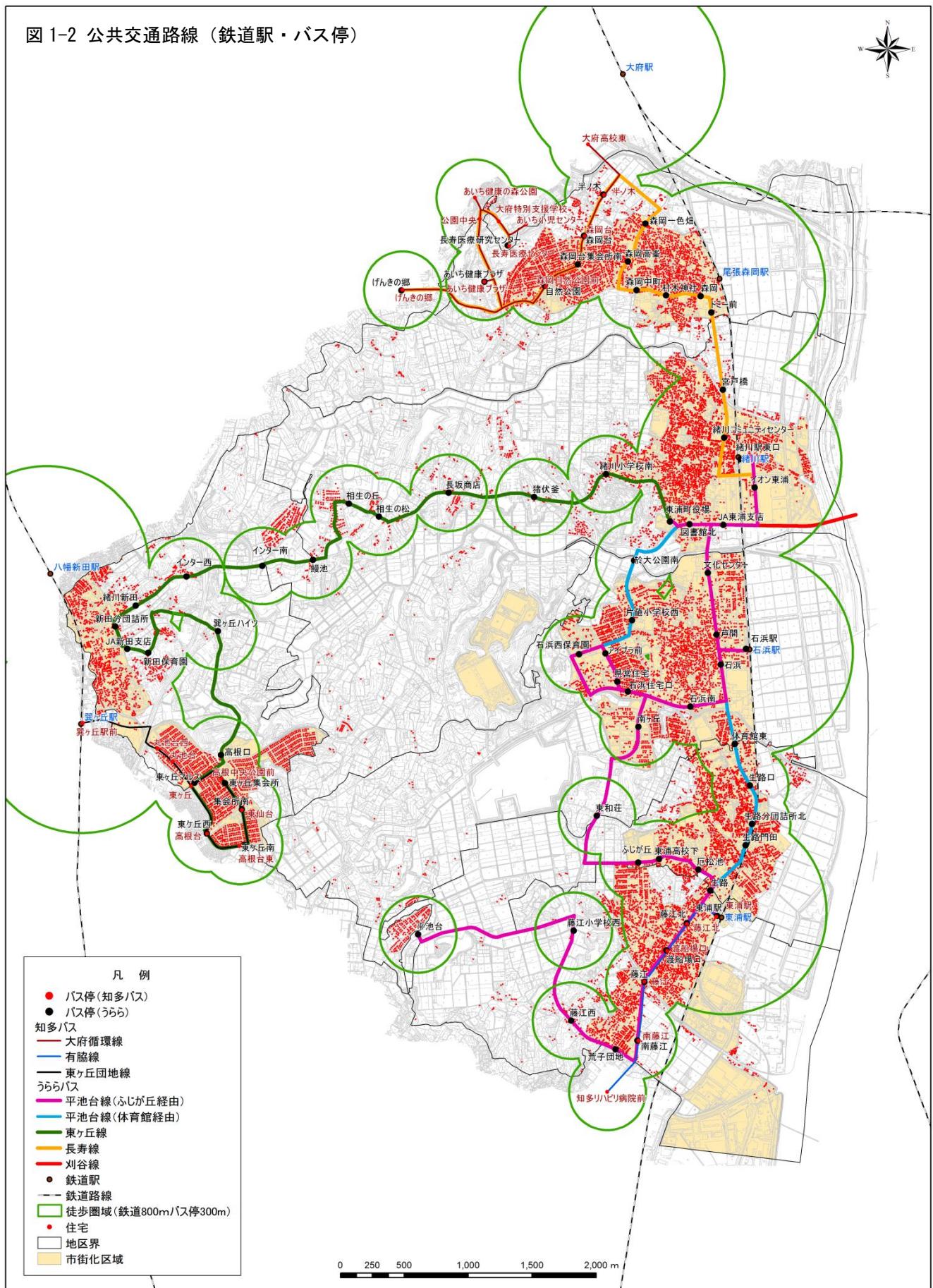
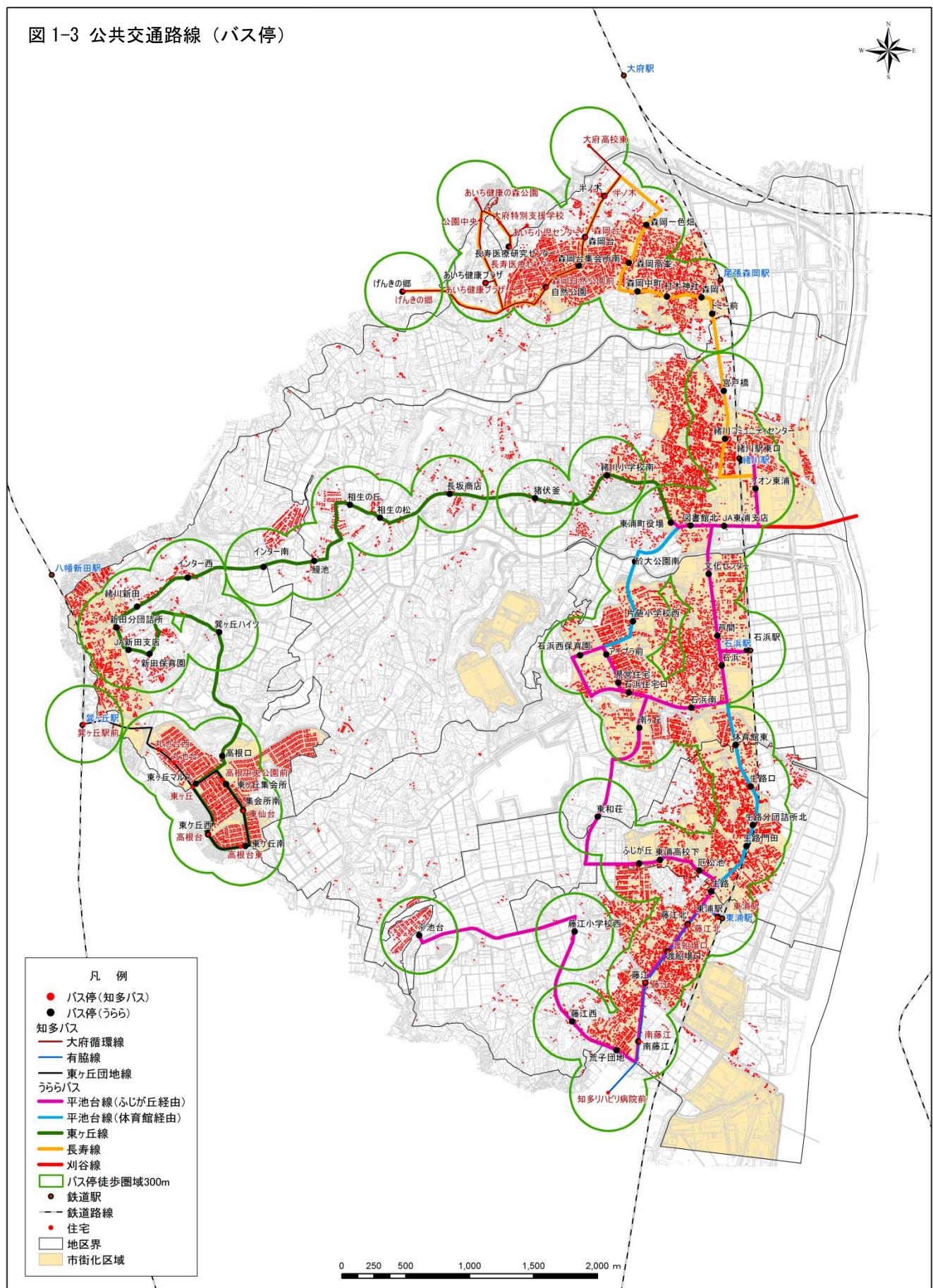


図 1-3 公共交通路線（バス停）



## ①市街化区域、市街化調整区域別の公共交通路線の徒歩圏人口カバー率と面積カバー率

市街化区域における鉄道とバスを合わせた公共交通の徒歩圏人口カバー率は、表 1-4、図 1-4 のとおり人口が 95.4%、面積では 87.2% と高い水準にあります。また、鉄道、バス別でみても、鉄道駅のカバー率は、人口が 57.7%、面積では 58.9%、バス停のカバー率については、人口が 85.2%、面積では 73.4% でありどちらも高い水準にあります。

市街化調整区域における公共交通の徒歩圏人口カバー率は、面積においては 40.1% となっていますが、人口では 70.5% となっており、特に、「う・ら・ら」のバス停は住宅が立地する地区の近傍にあり、多くの人口をカバーしています。

(7 頁 図 1-1 基幹的公共交通路線（鉄道駅）参照)

(9 頁 図 1-2 公共交通路線（鉄道駅・バス停）参照)

(10 頁 図 1-3 公共交通路線（バス停）参照)

表 1-4 市街化区域、市街化調整区域別公共交通路線の徒歩圏人口・面積カバー率

対象路線	人口				面積			
	市街化区域		市街化調整区域		市街化区域		市街化調整区域	
	人口 (人)	カバー率 (%)	人口 (人)	カバー率 (%)	面積 (ha)	カバー率 (%)	面積 (ha)	カバー率 (%)
鉄道路線およびバス路線	40,124	95.4	5,471	70.5	667.73	87.2	939.70	40.1
鉄道路線（JR 武豊線、名鉄河和線）	24,262	57.7	1,557	20.1	451.05	58.9	416.11	17.8
バス路線	35,826	85.2	5,198	67.0	562.37	73.4	646.98	27.6

※市街化区域全体：766ha、42,037 人

人口資料：都市計画基礎調査、平成 22 年国勢調査

市街化調整区域全体：2,342ha、7,763 人

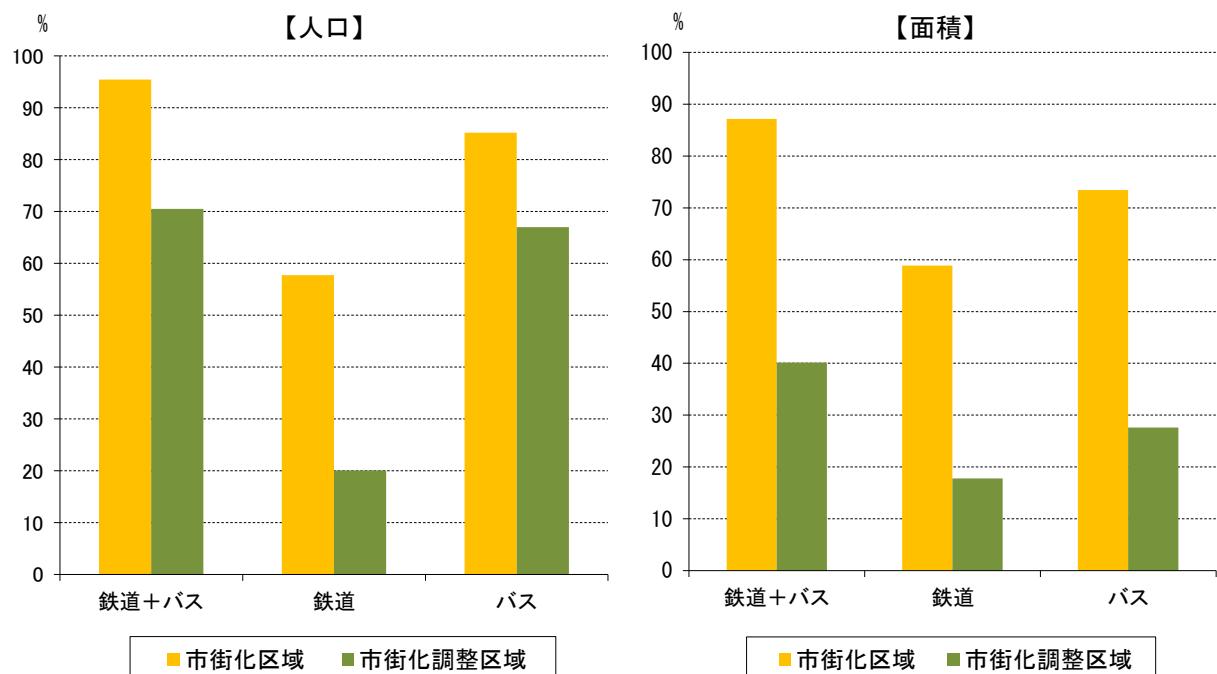


図 1-4 市街化区域、市街化調整区域別公共交通路線の徒歩圏人口・面積カバー率

## ②鉄道駅別徒歩圏の人口と市街化区域、市街化調整区域別面積の状況

鉄道駅別の徒歩圏の人口をみると、表 1-5、図 1-5 のとおり東浦駅が最も多く約 7,500 人となっています。次いで石浜駅、緒川駅そして尾張森岡駅の順となっています。

鉄道駅別に市街化区域、市街化調整区域別の徒歩圏域面積の状況をみると、表 1-5、図 1-6 のとおりJR 武豊線の緒川駅や東浦駅、名鉄河和線の翼ヶ丘駅で市街化区域面積の割合が高くなっています。そのほかのJR 武豊線の駅の徒歩圏には、比較的多くの市街化調整区域が含まれており、そのほとんどの区域は農地であり、また、津波被害が予想される区域であることから居住には適さない区域となっています。

(7 頁 図 1-1 基幹的公共交通路線（鉄道駅）参照)

表 1-5 鉄道駅別徒歩圏の人口と市街化区域、市街化調整区域面積の状況

		人口（人）・割合（%）						面積（ha）・割合（%）					
		市街化区域		市街化調整区域		合計		市街化区域		市街化調整区域		合計	
		人口	割合	人口	割合	人口	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合
JR 武豊線	大府駅	0	0	10	100.0	10	100.0	0	0.0	6.99	100.0	6.99	100.0
	尾張森岡駅	2,582	81.9	569	18.1	3,151	100.0	55.21	28.2	140.43	71.8	195.65	100.0
	緒川駅	5,253	95.4	255	4.6	5,508	100.0	125.86	70.3	53.11	29.7	178.97	100.0
	石浜駅	5,985	99.2	47	0.8	6,032	100.0	97.35	48.4	103.66	51.6	201.01	100.0
	東浦駅	7,262	97.2	211	2.8	7,473	100.0	121.04	60.9	77.66	39.1	198.70	100.0
	名鉄河和線 八幡新田駅	1,142	88.5	149	11.5	1,291	100.0	20.85	58.2	14.98	41.8	35.83	100.0
	翼ヶ丘駅	1,656	90.1	182	9.9	1,838	100.0	30.73	61.4	19.28	38.6	50.01	100.0

人口資料：都市計画基礎調査、平成 22 年国勢調査

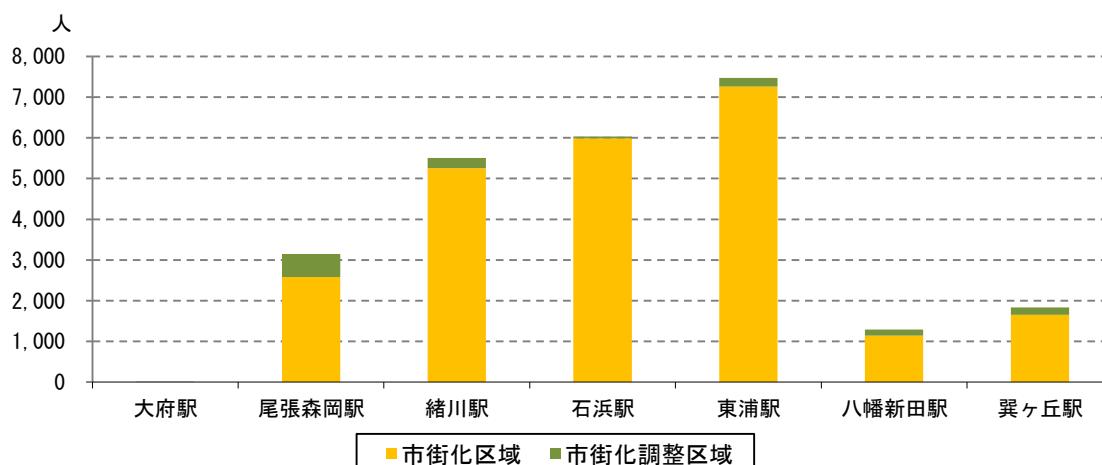


図 1-5 鉄道駅別徒歩圏の人口の状況

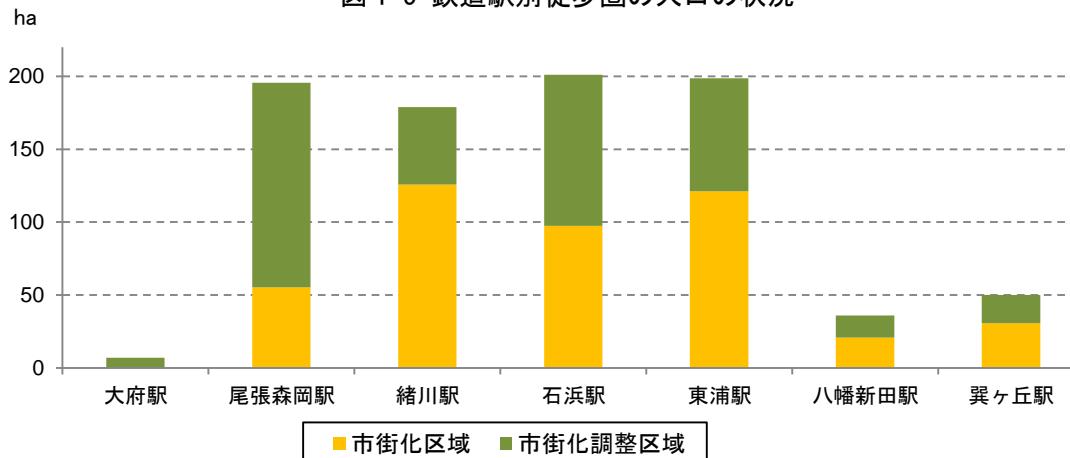


図 1-6 鉄道駅別徒歩圏の市街化区域、市街化調整区域面積の状況

### ③バス路線別徒歩圏の人口と市街化区域、市街化調整区域面積の状況

路線別の徒歩圏の人口をみると、表1-6、図1-7のとおり平池台線（ふじが丘経由）が最も多く、約20,900人となっています。次いで平池台線（体育館経由）、東ヶ丘線、長寿線の順となっています。

「知多乗合」、「う・ら・ら」をバス路線別に市街化区域、市街化調整区域別の徒歩圏域面積の状況をみると、表1-6、図1-8のとおり刈谷線および東ヶ丘団地線において市街化区域の割合が高くなっています。

(10頁 図1-3 公共交通路線（バス停）参照)

表1-6 バス路線別徒歩圏の人口と市街化区域、市街化調整区域面積の状況

		人口(人)・割合(%)						面積(ha)・割合(%)					
		市街化区域		市街化調整区域		合計		市街化区域		市街化調整区域		合計	
		人口	割合	人口	割合	人口	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合
知 多 乗 合	大府循環線	3,028	83.6	594	16.4	3,622	100.0	37.86	34.9	70.55	65.1	108.41	100.0
	東ヶ丘団地線	3,943	99.6	17	0.4	3,960	100.0	54.12	74.4	18.57	25.6	72.69	100.0
	有脇線	5,091	92.7	403	7.3	5,494	100.0	64.11	67.6	30.69	32.4	94.80	100.0
う	刈谷線	1,496	100.0	0	0.0	1,496	100.0	42.70	100.0	0.01	0.0	42.71	100.0
	・ 長寿線	8,475	87.2	1,247	12.8	9,722	100.0	137.61	54.4	115.22	45.6	252.83	100.0
ら	東ヶ丘線	7,578	77.2	2,232	22.8	9,810	100.0	137.31	31.2	302.16	68.8	439.46	100.0
	・ 平池台線(体育館経由)	18,266	91.8	1,634	8.2	19,900	100.0	281.37	61.4	176.85	38.6	458.22	100.0
ら	平池台線(ふじが丘経由)	19,141	91.7	1,740	8.3	20,881	100.0	300.31	59.5	204.56	40.5	504.87	100.0

人口資料：都市計画基礎調査、平成22年国勢調査

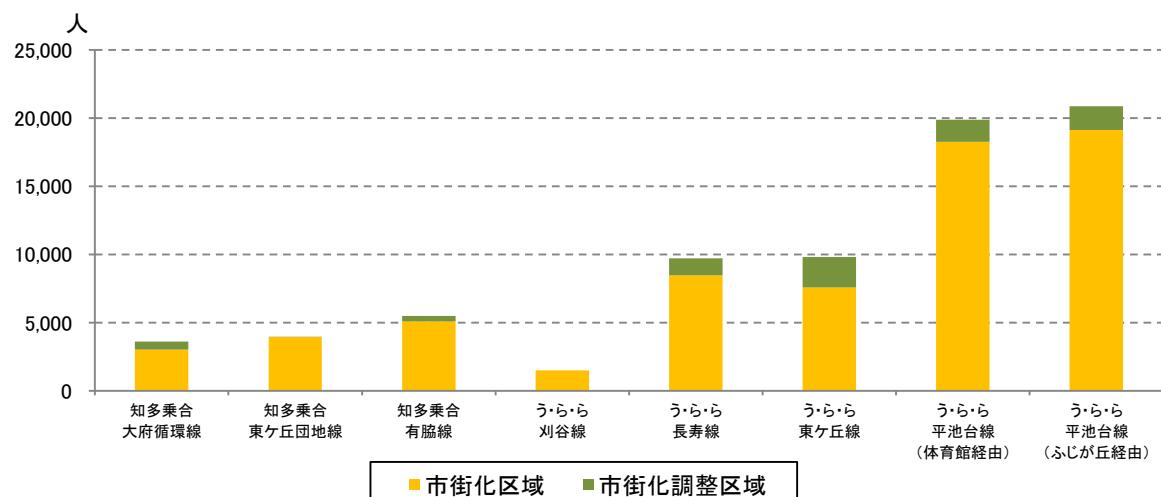


図1-7 バス路線別徒歩圏の人口の状況

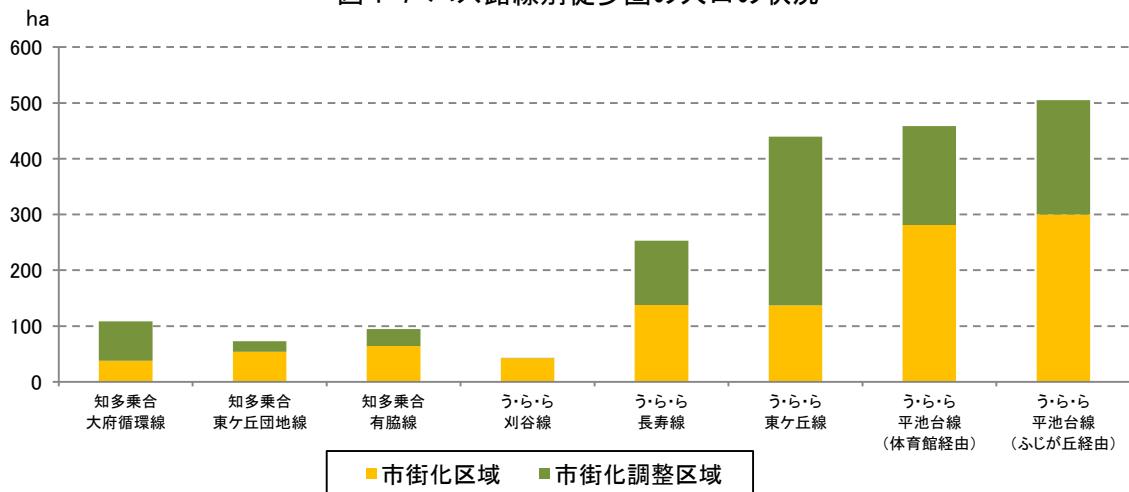


図1-8 バス路線別徒歩圏の市街化区域、市街化調整区域面積の状況

### 3) 公共交通の徒歩圏カバー率からみた課題と解決策

鉄道およびバスによる徒歩圏人口カバー率は、他都市と比べて非常に高い水準にあります。しかし、バスの運行本数が少ないとことから、質の高い徒歩圏人口カバー率とするために、バスの利便性の向上、特に、「う・ら・ら」の運行本数の改善等の充実が必要です。

住宅団地や既成市街地の一部の地区に、「う・ら・ら」の徒歩圏外となっている地区があります。このことから、運行ルートの検討が必要です。また、既成市街地においては、道路幅員が狭く運行不可能な地区があることから、運行車両の検討、道路の整備などと一体となった検討が必要です。

JR 武豊線各駅の徒歩圏の約半分が市街化調整区域です。徒歩圏内の住宅立地促進を考えた場合、市街化調整区域の市街化が考えられますが、そのほとんどが農地であり、また津波被害が予想される区域です。このことから市街化は望ましくありません。よって、幹線道路の沿道利用のための商業施設、津波に有効な構造の建築物の立地を促進し、住宅等については、市街化区域の徒歩圏内の低未利用地への立地促進が必要です。

鉄道駅の徒歩圏人口にはそれぞれ違いがあり、鉄道駅の利用促進を図るうえで、効率的な整備を図る観点からみれば、徒歩圏人口の多い駅から優先的に整備することが考えられます。

う・ら・らの路線別の徒歩圏人口にはそれぞれ違いがあり、「う・ら・ら」の利用促進を図るうえで、効率的な整備を図る観点からみれば、徒歩圏人口の多い路線から優先的に整備することが考えられます。

### 3. 生活利便施設（医療施設、福祉施設、商業施設、公共施設）

生活利便施設として、「医療施設」、「福祉施設」、「商業施設」、「公共施設」を設定し、それぞれの施設について徒歩圏の人口カバー率を算出します。

#### （1）医療施設の徒歩圏人口カバー率

##### 1) 他都市との比較

医療施設の徒歩圏（800m）人口カバー率を他都市と比較するにあたり、対象とする医療施設は「内科」と「外科」（整形外科を含む）とします。（ハンドブックより）

町内の内科・外科の徒歩圏人口カバー率をみると、表1-7のとおり91.6%となっています。これは全国の都市と比較すると、表1-8のとおり三大都市圏平均92%と同水準となっており、コンパクトシティ推進市とされている富山市や熊本市および豊橋市の値をも上回っています。

また、近隣の半田市や東海市および刈谷市と同等の高い水準となっており、医療施設の整備水準の高い地域の中にあって、本町自体も高い水準となっているといえます。

（16頁 図1-9 医療施設（内科・外科）参照）

表1-7 医療施設（内科・外科）の徒歩圏人口カバー率

対象施設	町総人口（人）	カバー人口（人）	人口カバー率（%）
医療施設（内科・外科）	49,800	45,614	91.6

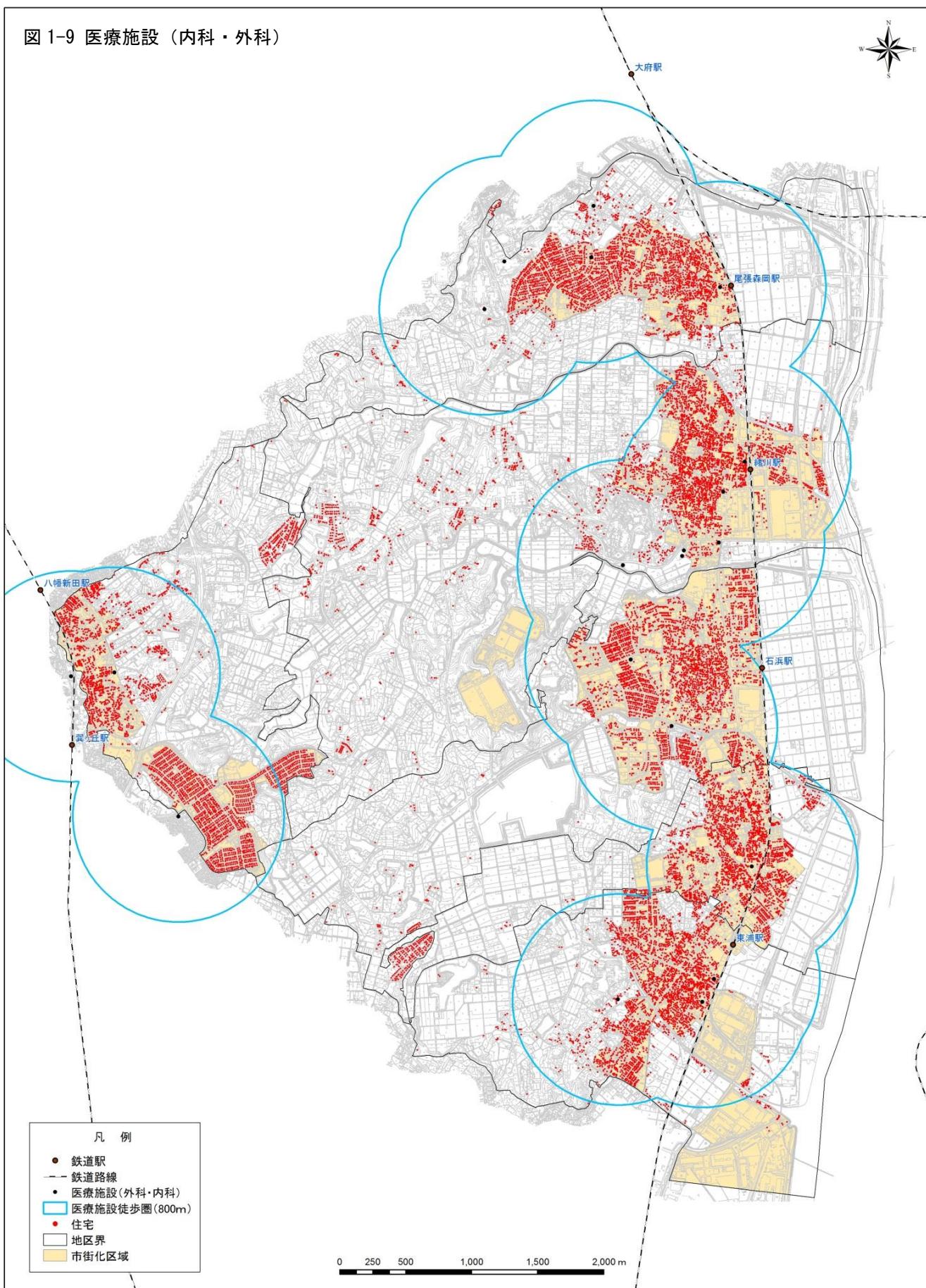
人口資料：平成22年国勢調査

表1-8 各都市等の医療施設（内科・外科）の徒歩圏人口カバー率

都市の種別	人口カバー率（%）	人口規模（人）
全國平均	85	
三大都市圏平均	92	
地方都市圏平均	政令市	91
	人口概ね50万人	86
	人口概ね30万人	76
コンパクトシティ推進市	富山市	78.1
	熊本市	89.8
	豊橋市	83.0
愛知県内10万人都市	豊川市	82.2
	安城市	81.5
	西尾市	72.6
	小牧市	83.5
	刈谷市	87.4
	稻沢市	74.2
	瀬戸市	82.2
	半田市	92.3
	東海市	90.5
名古屋市	98.5	2,263,894
東浦町	91.6	49,800

資料：国土交通省（東浦町以外）

図 1-9 医療施設（内科・外科）



## 2) 東浦町の現状

内科・外科のほか身近な診療科目である歯科、皮膚科および眼科を含めた各科目別の徒歩圏人口カバー率の状況をみると表 1-9 のとおりです。

歯科の徒歩圏人口カバー率は 88.8%で、内科・外科と同等の高い人口カバー率となっています。立地場所はJR武豊線、国道 366 号の南北軸に沿った市街地を中心とする地域と、緒川新田地区の市街地となっています。石浜地区の平池台団地もカバーされていますが、町外に立地する施設となっています。

皮膚科の徒歩圏人口カバー率は、59.2%となっています。立地場所は、森岡地区を除く緒川地区や緒川新田地区、石浜地区、生路地区および藤江地区となっています。

眼科の徒歩圏人口カバー率については、32.1%のとなっています。立地場所は、緒川地区や藤江地区に立地しています。また、森岡地区の一部がカバーされていますが、施設は町外に立地しています。

(18~20 頁 図 1-10~12 医療施設 各科図 参照)

表 1-9 医療施設の徒歩圏人口カバー率

対象施設	町総人口(人)	カバー人口(人)	人口カバー率(%)
内科・外科	49,800	45,614	91.6
歯科	49,800	44,211	88.8
皮膚科	49,800	29,472	59.2
眼科	49,800	15,997	32.1

人口資料：平成 22 年国勢調査

## 3) 徒歩圏人口カバー率から見た課題と解決策

### <内科・外科>

本町の医療施設は、主要な科目である内科・外科の徒歩圏人口カバー率が 9 割を超え、全国と比較しても三大都市圏平均と同水準であり、医療施設の利便性が非常に高いと評価できます。

カバーされていない地域は、ほとんどが市街化調整区域に位置する中央部の集落地や住宅団地となっており、これらの地区では利便性の確保が課題となります。

### <その他の医療施設>

その他の医療施設では、歯科が比較的高い徒歩圏人口カバー率となっていますが、皮膚科、眼科は低い徒歩圏人口カバー率となっています。これらの科目は受診者が限定的であることから、町全体を徒歩圏内でカバーするのは難しい科目といえます。

産婦人科においては町内に立地がなく、近隣の刈谷市、半田市、知多市、大府市、阿久比町に立地しており、徒歩圏人口をカバーできていませんが、比較的近い距離に複数立地しています。

### <まとめ>

以上のことから、内科・外科の医療施設と徒歩圏内にない集落地や住宅団地をつなぐ公共交通の整備、眼科などの医療施設の維持・充実や交通結節点を中心とした公共交通の整備が必要です。

図 1-10 医療施設（歯科）

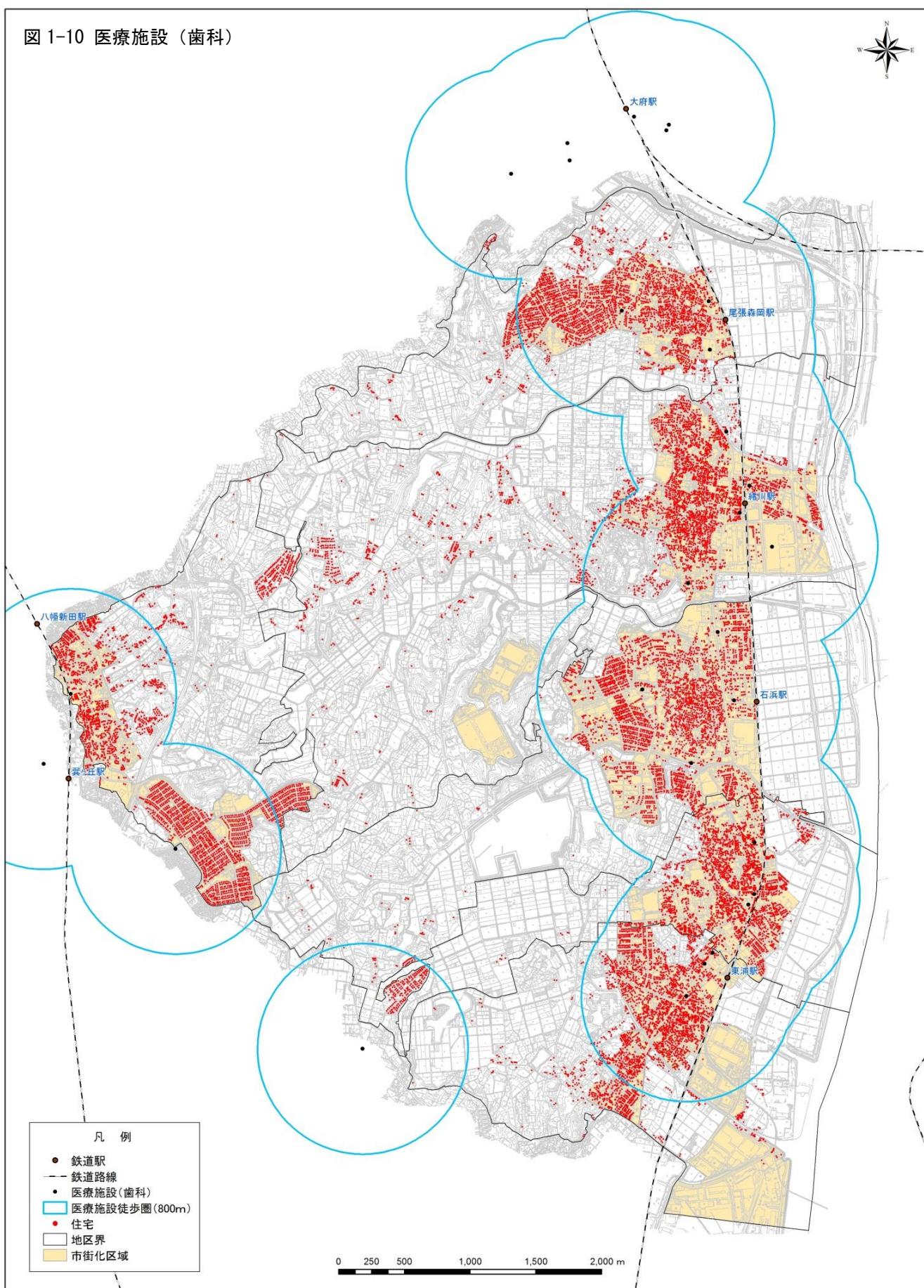


図 1-11 医療施設（皮膚科）

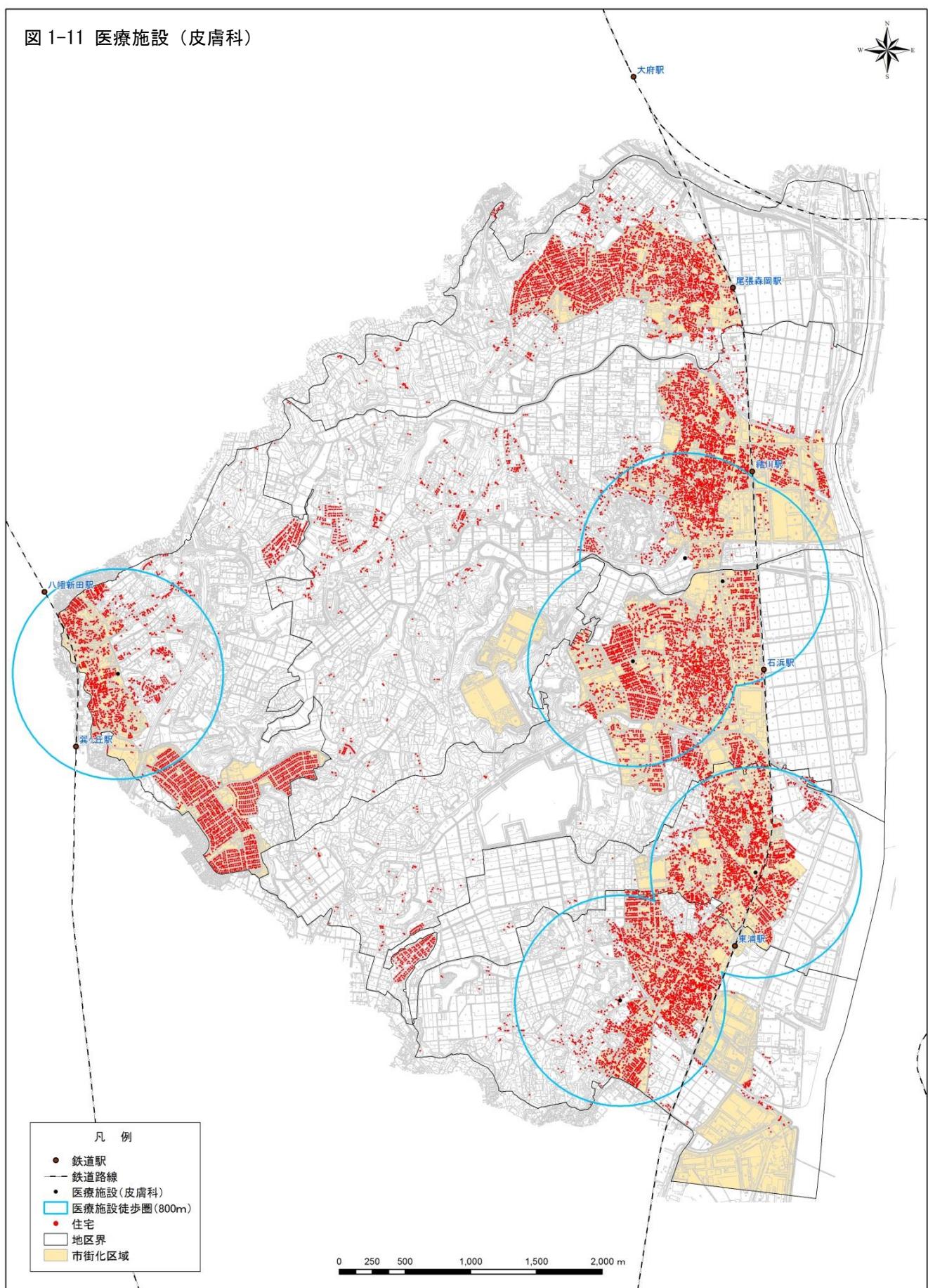
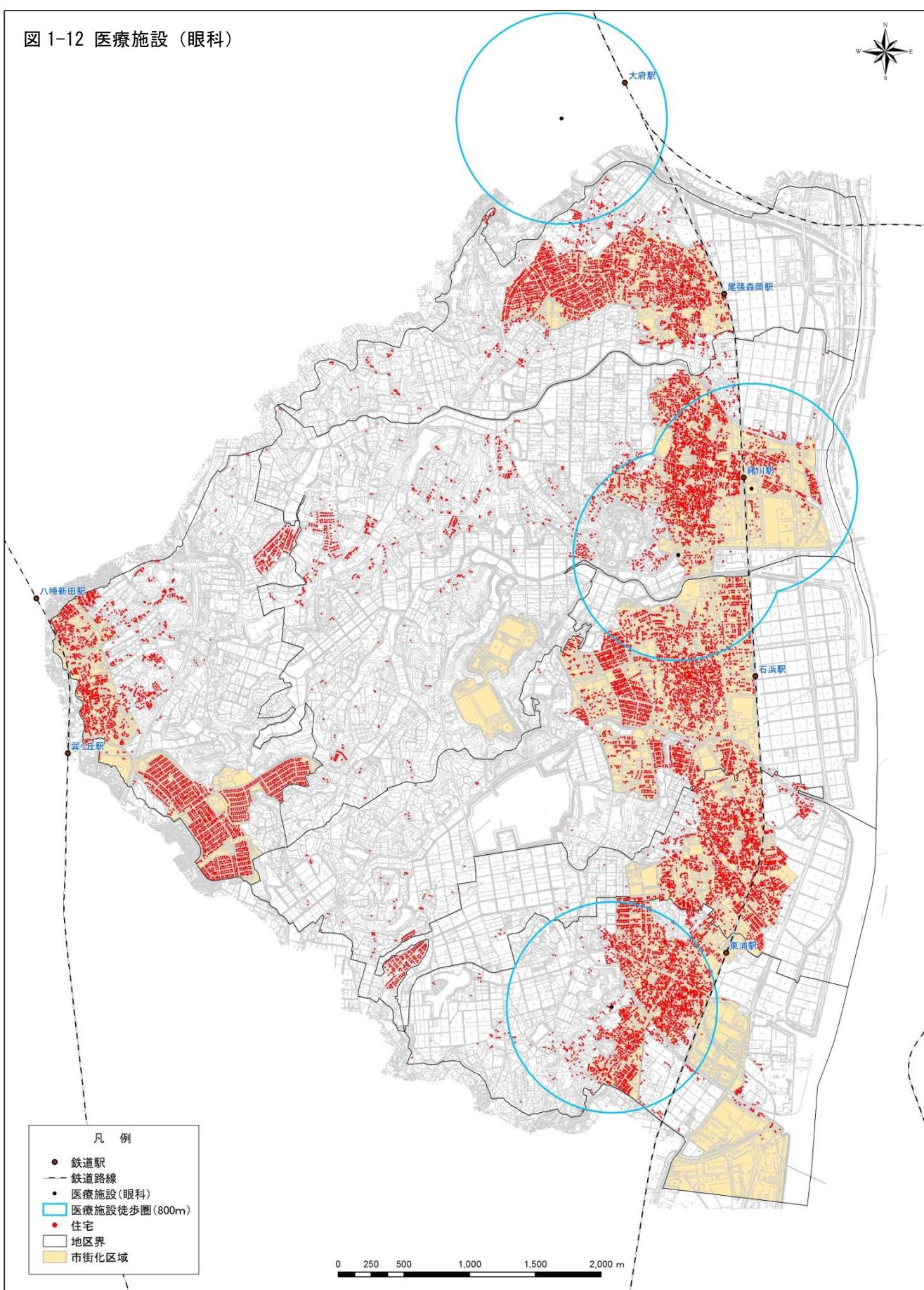


図 1-12 医療施設（眼科）



## (2) 福祉施設の徒歩圏人口カバー率

### 1) 他都市との比較

福祉施設の徒歩圏（800m）人口カバー率を他都市と比較するにあたり、対象とする福祉施設は「介護施設」（通所系、訪問系、小規模多機能施設）とします。（ハンドブックより）

※グループホームなどは入居施設であり、本集計の対象外となります。

町内の介護施設の徒歩圏人口カバー率をみると、表 1-10 のとおり 85.8% となっています。これは全国の都市と比較すると、表 1-11 のとおり人口概ね 50 万人都市平均と同水準であり、コンパクトシティ推進市とされている熊本市には及びませんが、富山市や豊橋市の値を上回っています。

また、近隣の半田市や刈谷市と同等の高い水準となっており、介護施設の整備水準の高い地域の中にあって、本町も高い水準になっているといえます。

(22 頁 図 1-13 福祉施設（介護施設）参照)

表 1-10 福祉施設（介護施設）の徒歩圏人口カバー率

対象施設	町総人口 (人)	カバー人口 (人)	人口カバー率 (%)
福祉施設（介護施設）	49,800	42,739	85.8

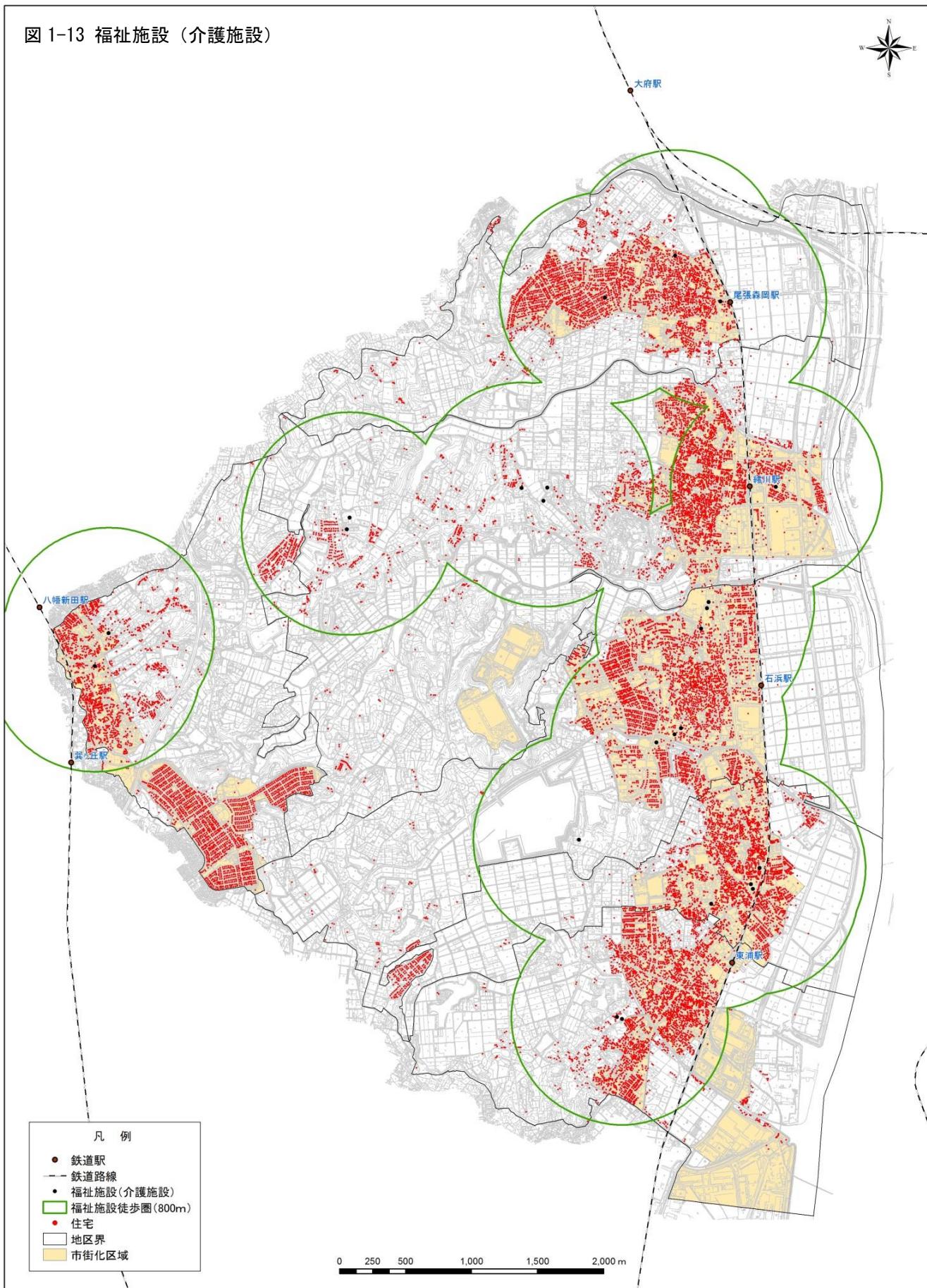
人口資料：平成 22 年国勢調査

表 1-11 各都市等の福祉施設（介護施設）の徒歩圏）人口カバー率

都市の種別	人口カバー率 (%)	人口規模 (人)
全國平均	79	
三大都市圏平均	83	
地方都市圏 平均	政令市	90
	人口概ね 50 万人	85
	人口概ね 30 万人	73
コンパクトシティ推進市	富山市	77.2
	熊本市	93.1
	豊橋市	78.6
愛知県内 10 万人都市	豊川市	82.2
	安城市	74.9
	西尾市	57.0
	小牧市	81.9
	刈谷市	83.2
	稻沢市	73.9
	瀬戸市	88.5
	半田市	95.4
	東海市	69.9
	名古屋市	98.7
東浦町	85.8	49,800

資料：国土交通省（東浦町以外）

図 1-13 福祉施設（介護施設）



## 2) 東浦町の現状

本町の福祉施設として、介護施設のほか高齢者福祉施設（老人憩の家）、児童福祉施設（児童館、保育園など）、および障がい者福祉施設（日中活動系サービス、訪問系サービス事業所など）を含めた各種別の徒歩圏人口カバーの状況をみると表1-12のとおりです。

高齢者福祉施設の徒歩圏人口カバー率は75.3%、児童福祉施設については95.6%であり、ほぼ全人口をカバーしています。障がい者福祉施設は、50.6%と低くなっています。

本町には高齢者が集まる施設として、老人憩の家の他にふれあいサロンがあります。この施設は地域住民が気楽に集い交流できる場所を提供することにより、高齢者等の閉じこもりの防止や健康維持を図ることを目的としたものです。高齢者が利用する施設として老人憩の家にふれあいサロンを加えた徒歩圏人口カバー率は75.3%となっています。

(24~26頁 図1-14~16 福祉施設 各種施設 参照)

表1-12 福祉施設（種類別）の徒歩圏人口カバー率

対象施設	町総人口 (人)	カバー人口 (人)	人口カバー率 (%)
介護施設	49,800	42,739	85.8
高齢者福祉施設	49,800	37,051	75.3
児童福祉施設	49,800	47,589	95.6
障がい者福祉施設	49,800	25,185	50.6

人口資料：平成22年国勢調査

## 3) 徒歩圏人口カバー率から見た課題と解決策

### <介護施設>

福祉施設のうち介護施設は、東ヶ丘団地や平池台団地の徒歩圏内に施設が立地していないカバーできていない状況です。ただし、介護施設は車による送迎がある場合が多く、必ずしも徒歩圏内にある必要が無い場合もあり、状況に応じた配置が必要です。

### <高齢者福祉施設、児童福祉施設>

高齢者福祉施設、児童福祉施設については、市街化調整区域も含め住宅が立地している地区的ほとんどが徒歩圏内に立地しています。

### <障がい者福祉施設>

障がい者福祉施設は、徒歩圏人口カバー率が比較的低い値になっていますが、利用者が限定される施設であることから、すべての住民を徒歩圏でカバーする整備では無く、利用者の状況に応じた配置が必要です。

図 1-14 福祉施設（高齢者福祉施設）

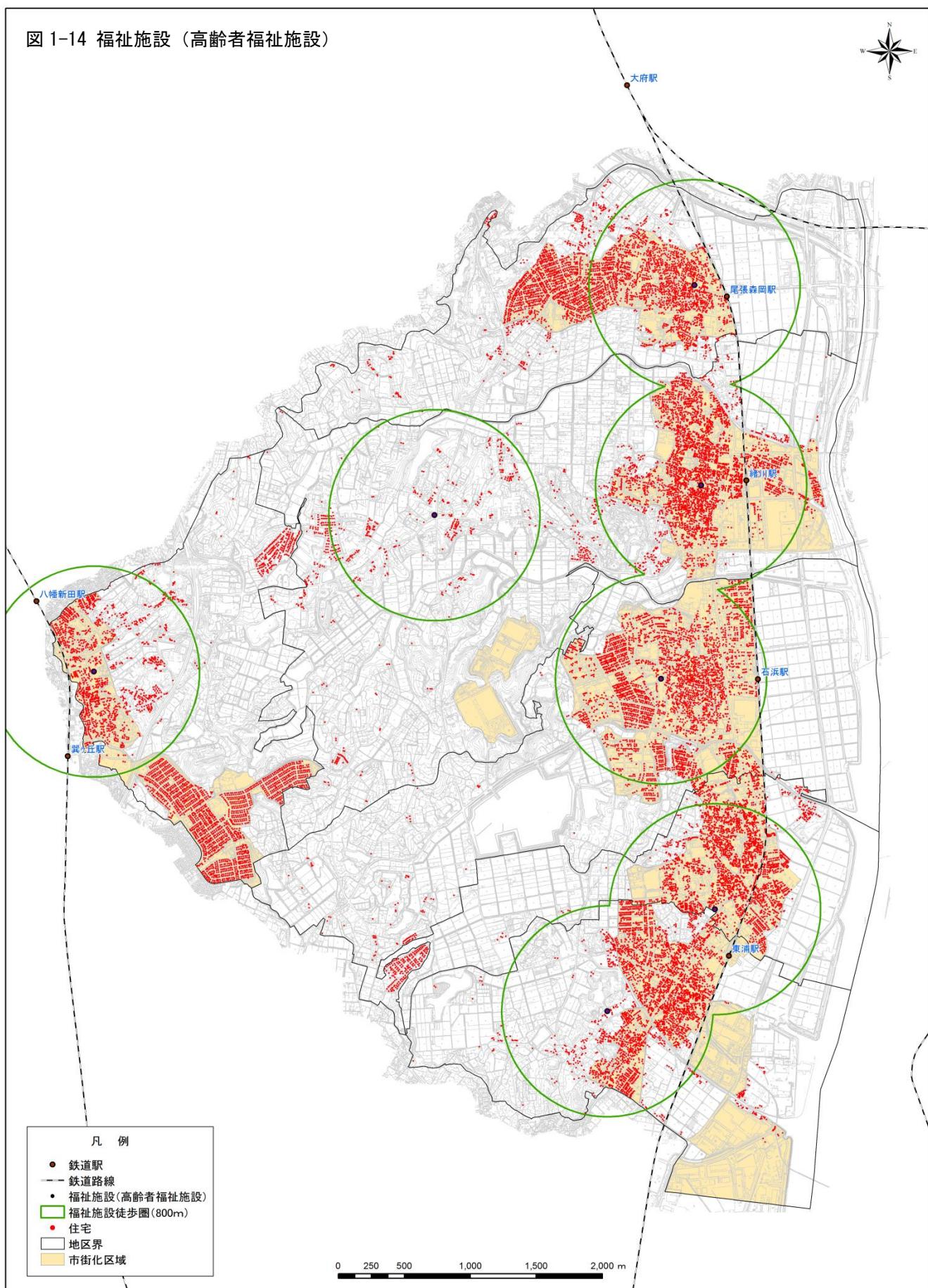


図 1-15 福祉施設（児童福祉施設）

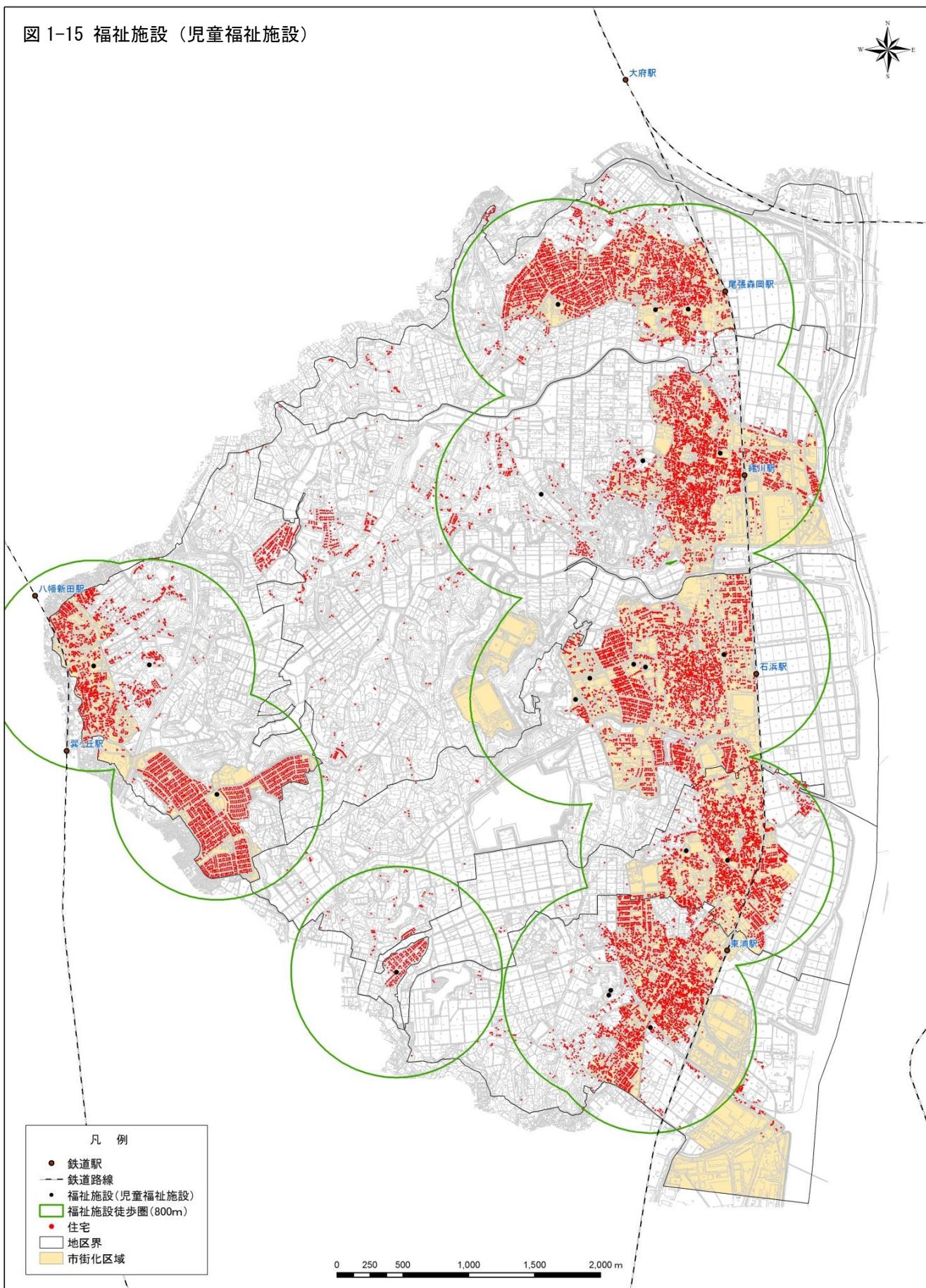
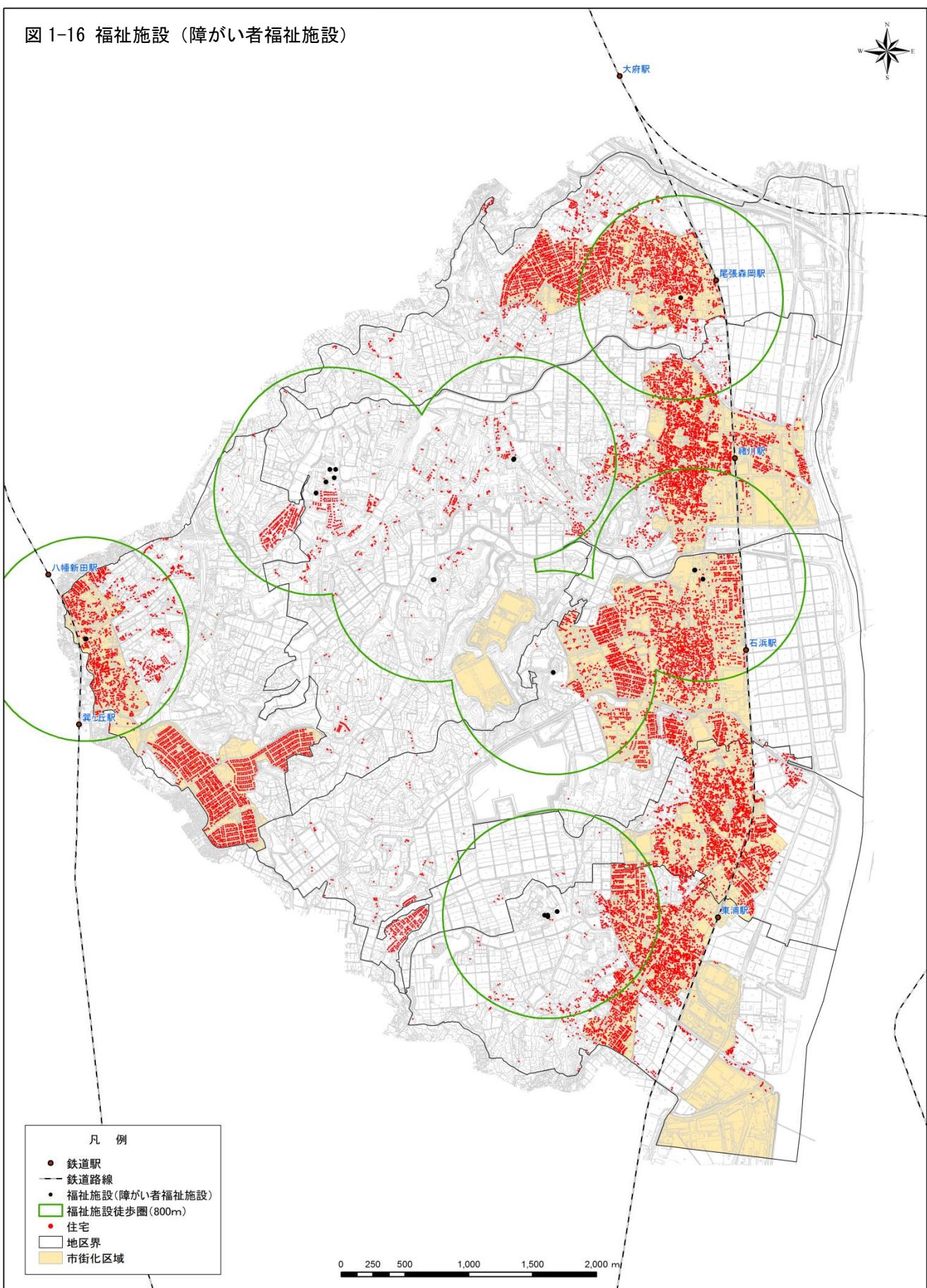


図 1-16 福祉施設（障がい者福祉施設）



### (3) 商業施設の徒歩圏人口カバー率

#### 1) 他都市との比較

商業施設の徒歩圏（800m）人口カバー率を他都市と比較するにあたり、対象とする商業施設は「スーパー、百貨店」（延床面積 1,500 m<sup>2</sup>以上）とします。（ハンドブックより）

町内の商業施設の徒歩圏人口カバー率をみると、表 1-13 のとおり 52.5%となっています。これは全国の都市と比較すると、表 1-14 のとおり人口概ね 30 万人都市平均の 65%を下回る水準となっています。

また、近隣の半田市や東海市および刈谷市では、本町より高い水準となっています。

本町の商業施設は、JR 武豊線や国道 366 号の南北軸に沿って立地しており、内陸部から西部には立地していない状況です。

(28 頁 図 1-17 商業施設（延床面積 1,500 m<sup>2</sup>以上スーパー・マーケット）参照)

表 1-13 商業施設（延床面積 1,500 m<sup>2</sup>以上スーパー）の徒歩圏人口カバー率

対象施設	町総人口 (人)	カバー人口 (人)	人口カバー率 (%)
商業施設（延床面積 1,500 m <sup>2</sup> 以上のスーパー）	49,800	26,158	52.5

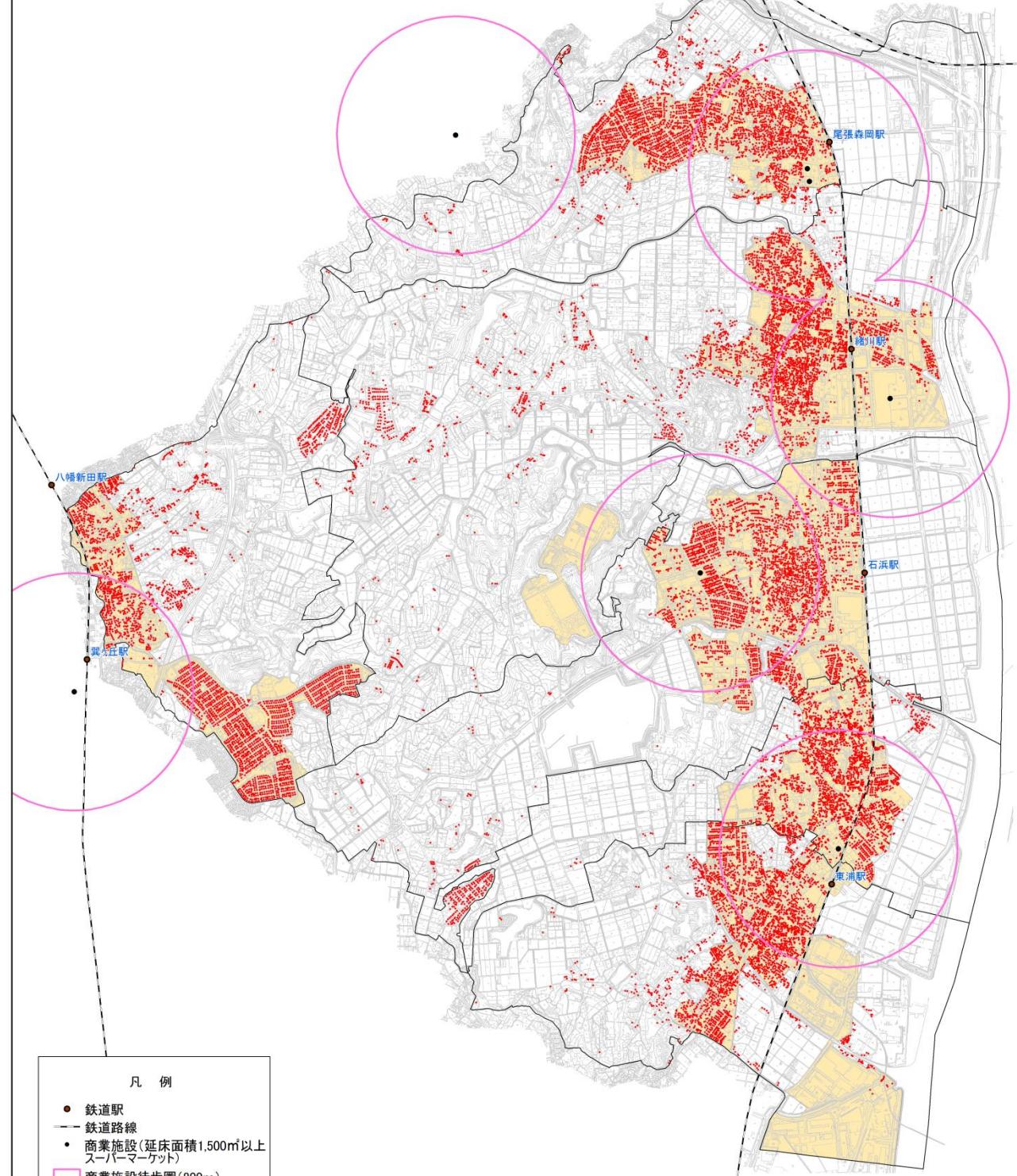
人口資料：平成 22 年国勢調査

表 1-14 各都市等の商業施設（延床面積 1,500 m<sup>2</sup>以上スーパー）の徒歩圏人口カバー率

都市の種別	人口カバー率 (%)	人口規模 (人)
全國 平均	75	
三大都市圏 平均	83	
地方都市圏 平均	82	
人口概ね 50 万人	75	
人口概ね 30 万人	65	
富山市	65.0	421,890
熊本市	79.0	734,474
豊橋市	76.3	376,665
豊川市	77.1	181,928
安城市	73.8	178,691
西尾市	49.0	165,298
小牧市	77.6	147,132
刈谷市	71.3	145,781
稻沢市	60.6	136,442
瀬戸市	75.1	132,224
半田市	87.4	118,828
東海市	77.7	107,690
名古屋市	93.1	2,263,894
東浦町	52.5	49,800

資料：国土交通省（東浦町以外）

図 1-17 商業施設（延床面積 1,500 m<sup>2</sup>以上スーパーマーケット）



## 2) 東浦町の現状

生活利便施設に代表される身近にあると便利な施設として、延床面積 1,500 m<sup>2</sup>以上のスーパーマーケットを含むすべてのスーパーマーケットやコンビニエンスストア、食堂、喫茶店を対象とした飲食店、理容店・美容院、銀行、郵便局を対象とした金融機関の各施設別の徒歩圏人口カバー率の状況をみると表 1-15 のとおりです。

すべてのスーパーマーケットの徒歩圏人口カバー率は 65.5%となっています。立地場所は、延床面積 1,500 m<sup>2</sup>以上のスーパーマーケットに加えて石浜地区に 1 件、緒川新田地区に 1 件立地しています。このことにより、徒歩圏人口カバー率が 13.0% 向上しています。

コンビニエンスストアの徒歩圏人口カバー率については、79.6% となっています。立地場所は、スーパーマーケットと同様に、JR 武豊線や国道 366 号の南北軸に沿った市街地を中心とする地域、緒川新田地区の県道知多東浦線の沿道、その他、町外ではあるものの町内を徒歩圏とした地域に複数立地しています。

食堂、喫茶店を対象とした飲食店の徒歩圏人口カバー率は、79.5% となっています。立地場所は、JR 武豊線、国道 366 号の南北軸に沿った市街地を中心とする地域と、東浦知多インターチェンジ周辺地域の 2 つの地域に立地しており、その他の地域はカバーされていません。

理容店・美容院の徒歩圏人口カバー率は、92.7% となっています。立地場所は、JR 武豊線や国道 366 号の南北軸に沿った市街地を中心とする地域と、緒川新田地区の市街地の 2 つの地域に立地しており、その他の地域はカバーされていない、なかには施設が無い住宅団地があります。

金融機関の徒歩圏人口カバー率は、87.2% となっています。立地場所は、理容店・美容院と同様となっています。

(30~34 頁 図 1-18~22 商業施設 各種施設 参照)

表 1-15 商業施設（種類別）の徒歩圏人口カバー率

対象施設	町総人口(人)	カバー人口(人)	人口カバー率(%)
商業施設（延床面積 1,500 m <sup>2</sup> 以上のスーパー）	49,800	26,158	52.5
スーパーマーケット（すべて）	49,800	32,609	65.5
コンビニエンスストア	49,800	39,664	79.6
飲食店（食堂、喫茶店）	49,800	39,594	79.5
理容店・美容院	49,800	46,176	92.7
金融機関（銀行、郵便局）	49,800	43,430	87.2

人口資料：平成 22 年国勢調査

図 1-18 商業施設（全スーパー・マーケット）

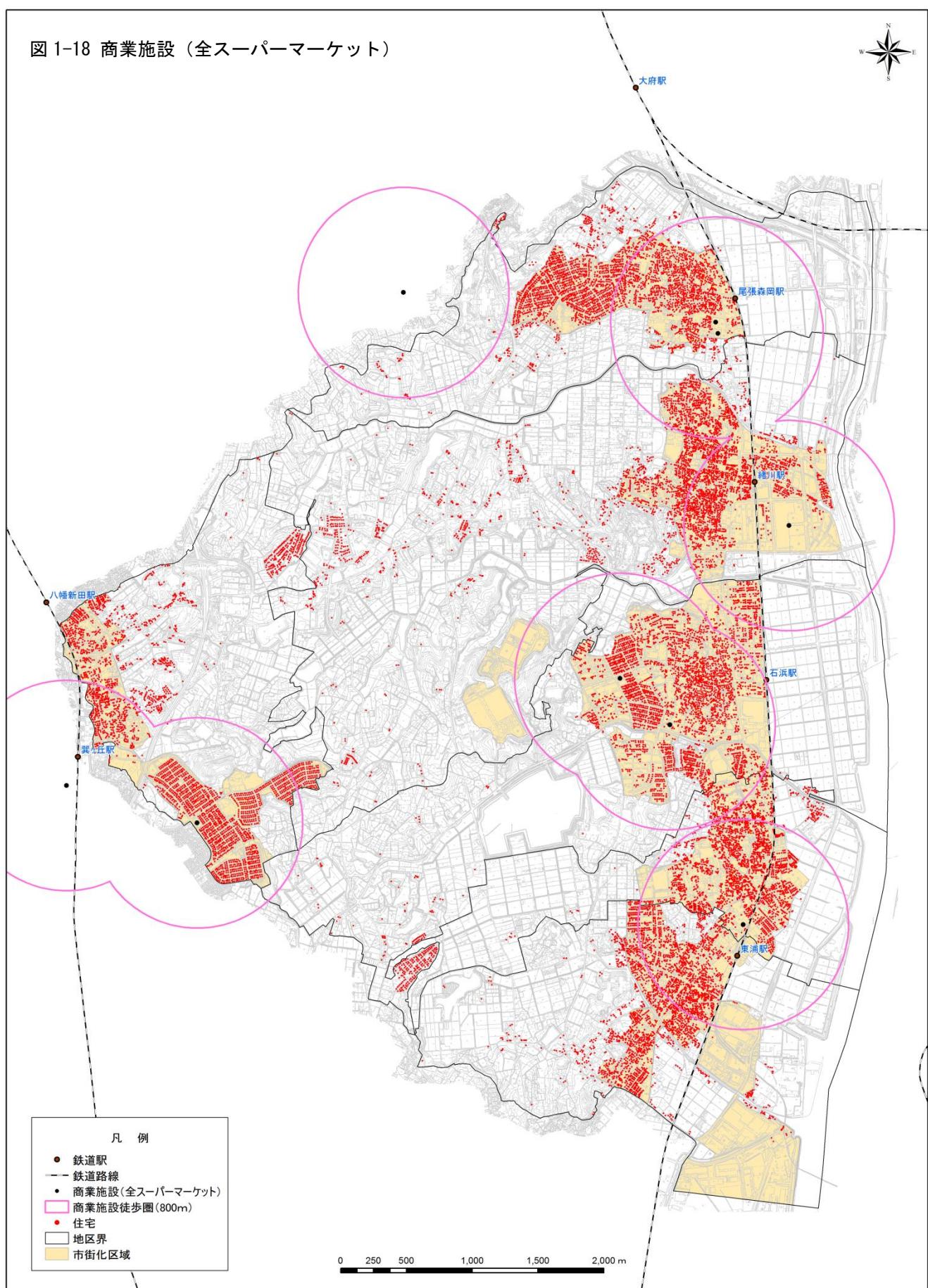


図 1-19 商業施設(コンビニエンスストア)

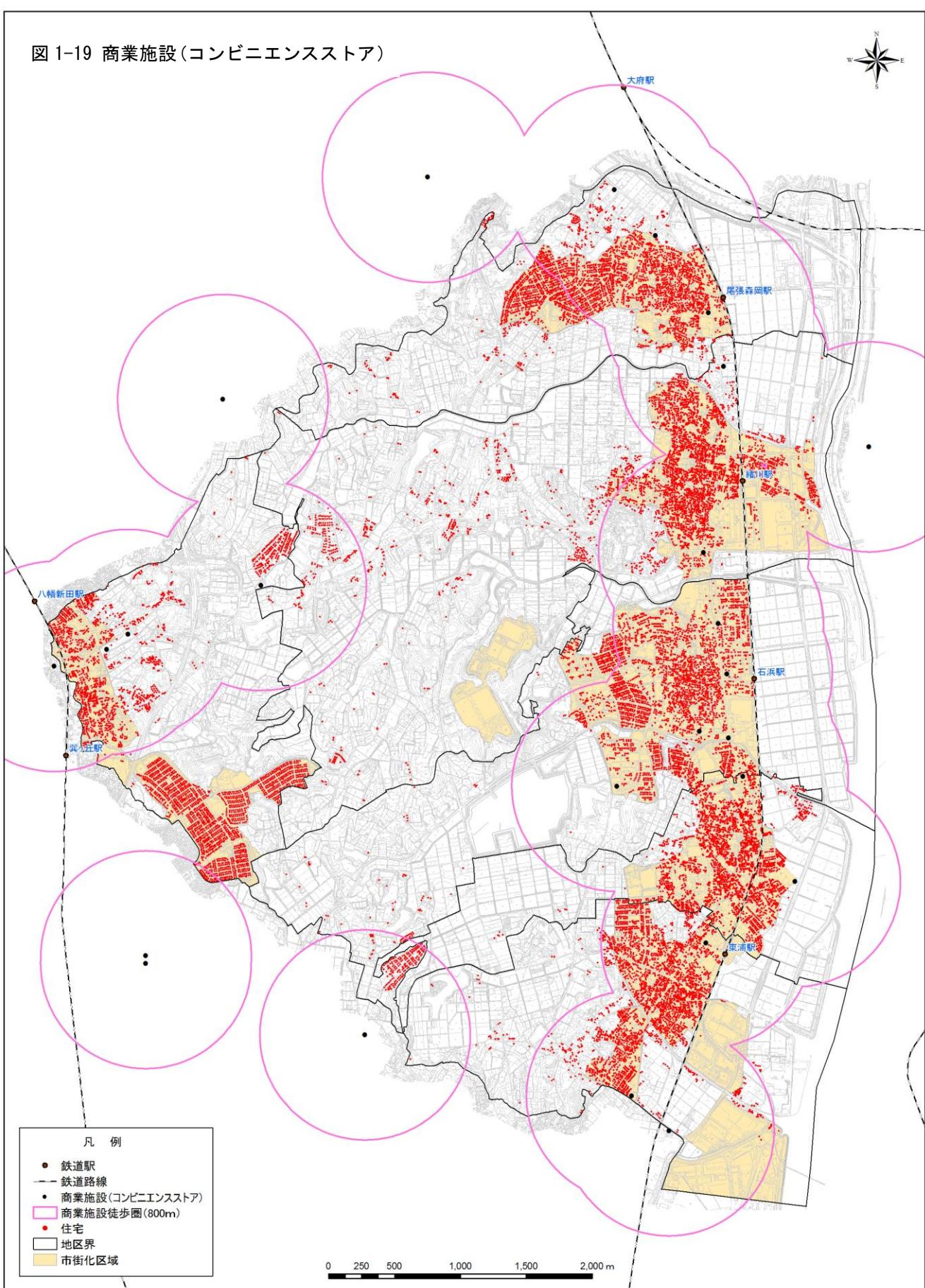


図 1-20 商業施設（飲食店）

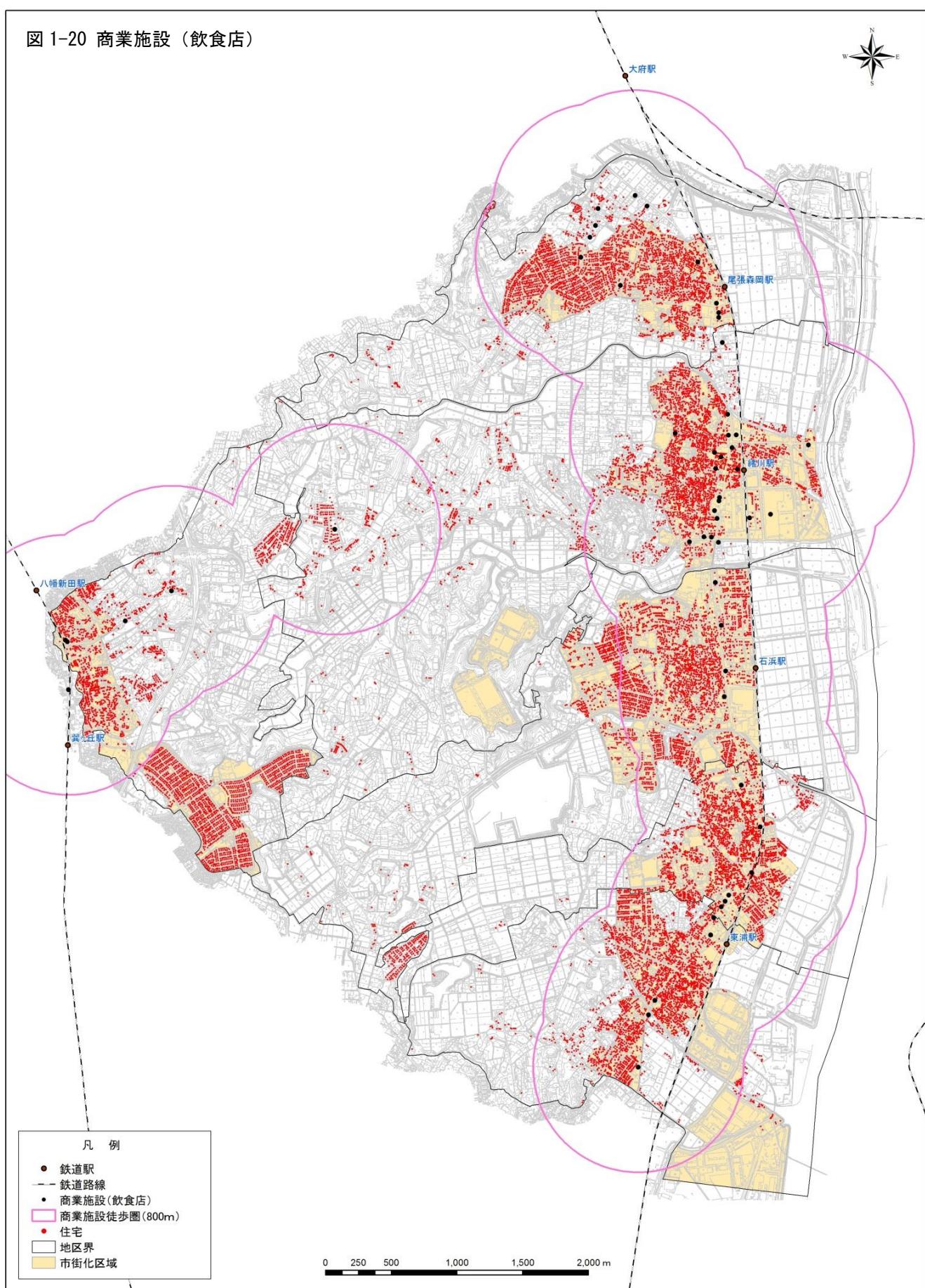


図 1-21 商業施設(理容店・美容院)

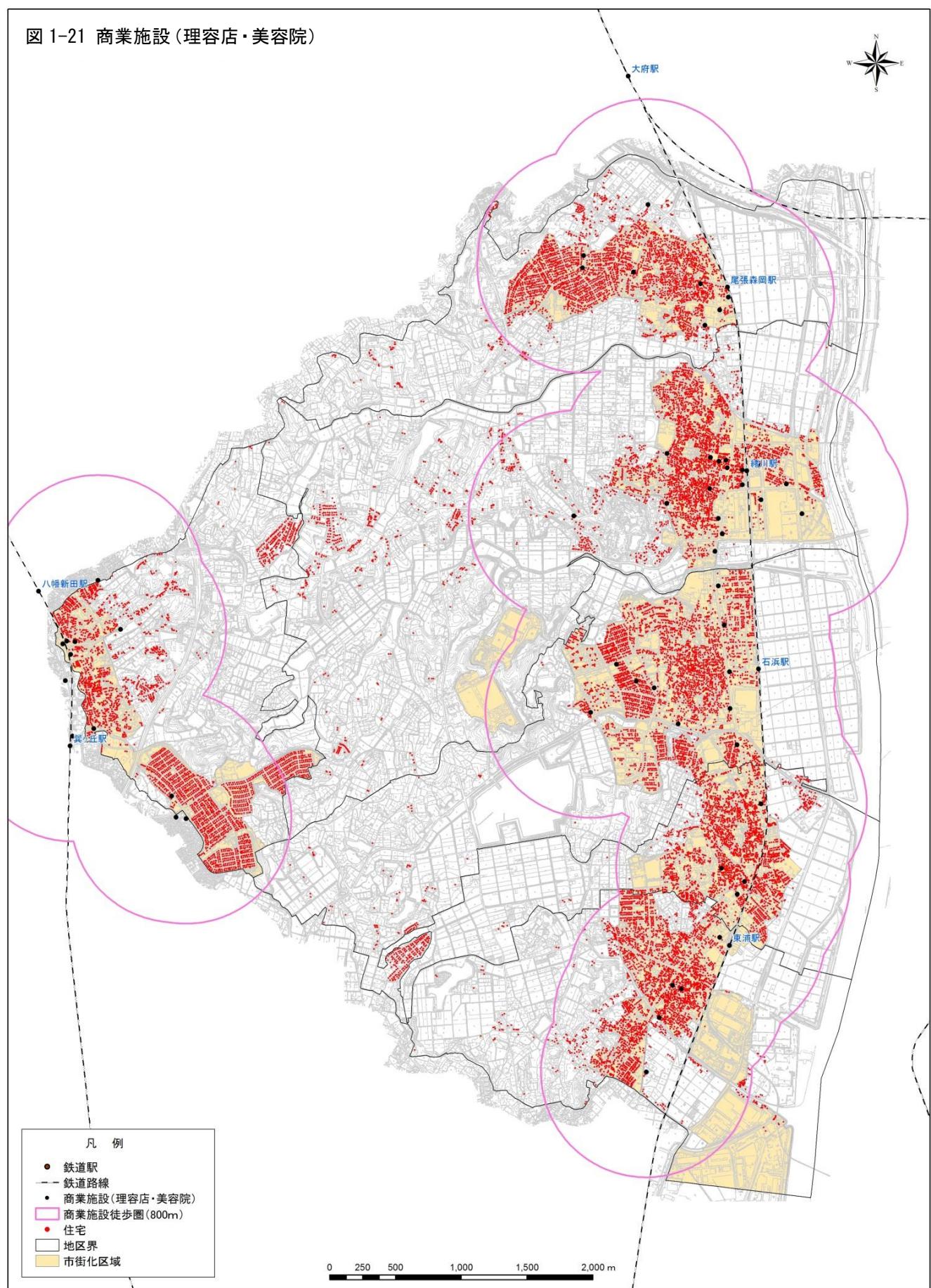
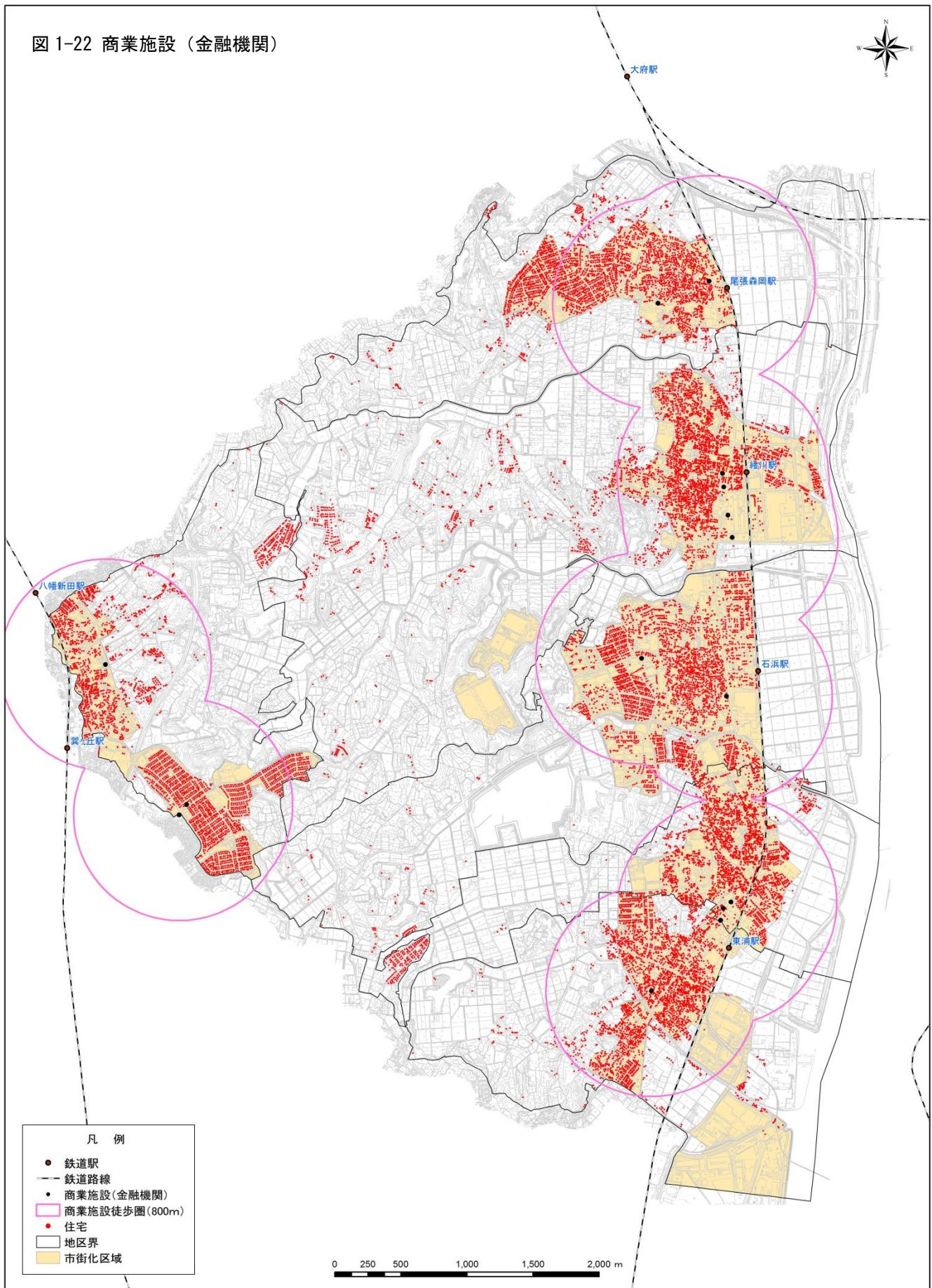


図 1-22 商業施設（金融機関）



### 3) 徒歩圏人口カバー率から見た課題と解決策

＜延床面積 1,500 m<sup>2</sup>以上のスーパーマーケット＞

延床面積 1,500 m<sup>2</sup>以上のスーパーマーケットは、徒歩圏人口カバー率が全国平均及び近隣市の水準に比べると低い状況にあります。

また、立地場所もJR武豊線や国道 366 号の南北軸沿いに沿って立地しており、内陸部から西部には立地していない状況です。

＜すべてのスーパーマーケット＞

すべてのスーパーマーケットやコンビニエンスストアは、緒川新田地区などに立地し徒歩圏人口カバー率も高くなっていますが、一部の住宅団地や集落地などではカバーできていない箇所も見られます。

＜飲食店、理容店・美容院＞

飲食店や理容店・美容院については、市街地を中心に立地していますが、徒歩圏人口カバー率も比較的高いことから維持、存続が必要と考えます。

＜金融機関＞

金融機関は偏在がなく立地しており、徒歩圏人口カバー率も比較的高いことから現状の維持が望されます。

＜まとめ＞

商業施設の立地においてカバーされていない地域は、森岡地区の森岡台団地の西部および緒川新田地区の東ヶ丘団地の一部などとなっています。これらの地域の利便性の確保が課題です。

#### (4) 公共施設の立地状況

役場や文化施設、コミュニティセンターの公共施設は、図 1-23 のとおり町東部および西部の市街化区域ならびにその隣接部の徒歩圏に施設が立地し、アクセスしやすく利便性が高い状況です。

図書館等の町を代表する施設は、町全域を徒歩圏とするのではなく、施設利用の際にはバスなどの公共交通機関が利用されています。

小・中学校については、小学校が 7 校、中学校が 3 校あります。一部の小学校区では住宅開発地区から「う・ら・ら」を利用した通学となっています。

なお、中学校については、当初、町の中心に東浦中学校を設置しましたが、住宅地開発に伴う生徒数の増加により、北部中学校および西部中学校を開校し、校区の北部に立地している状況となっています。

また、駐在所・交番が緒川地区、緒川新田地区、石浜地区および藤江地区の 4 箇所に立地しており、徒歩圏人口カバー率については、45.8%となっています。駐在所・交番は、町内の広がりや人口の分布に応じて適切に配置されており、現状の維持が望まれます。

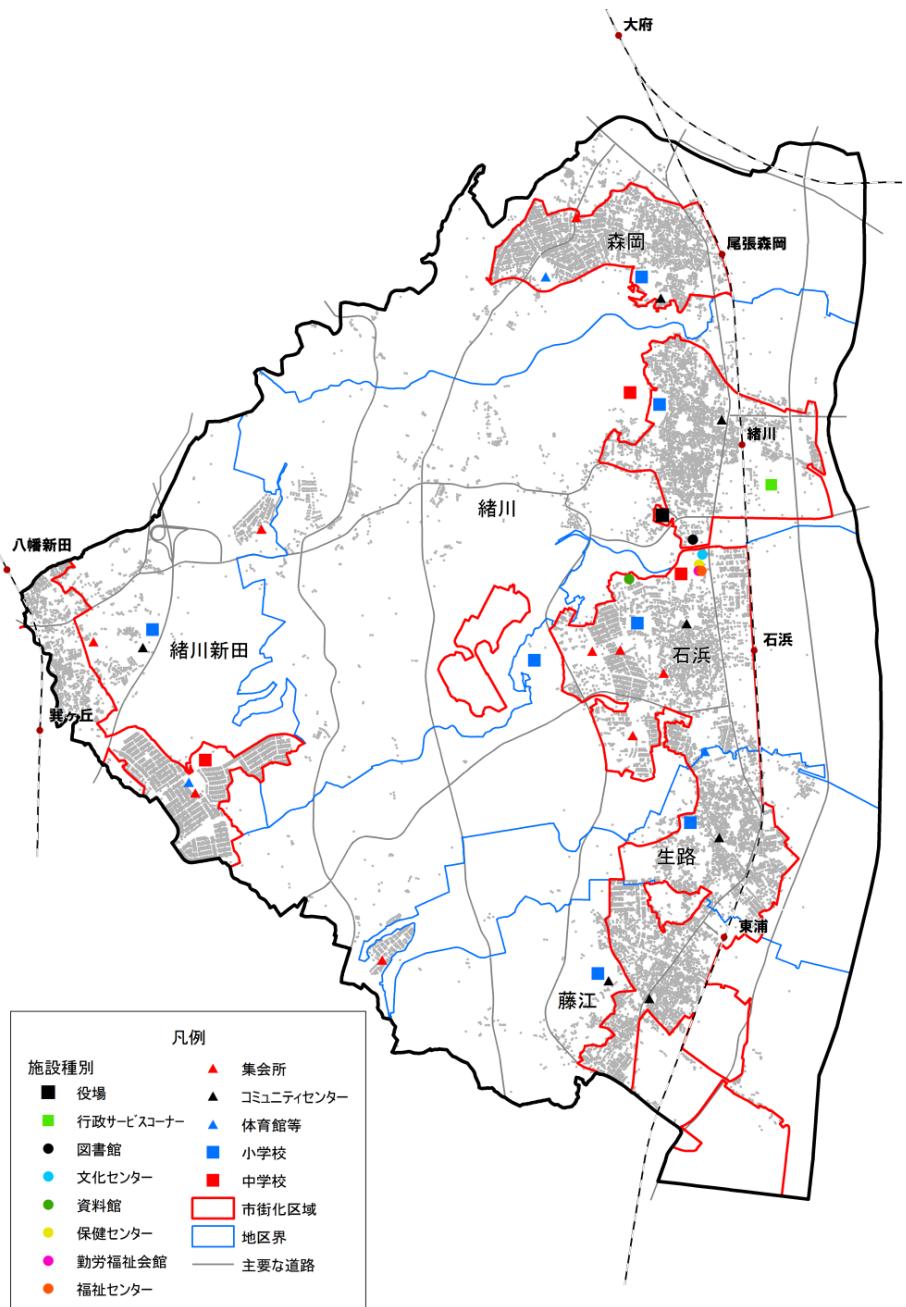


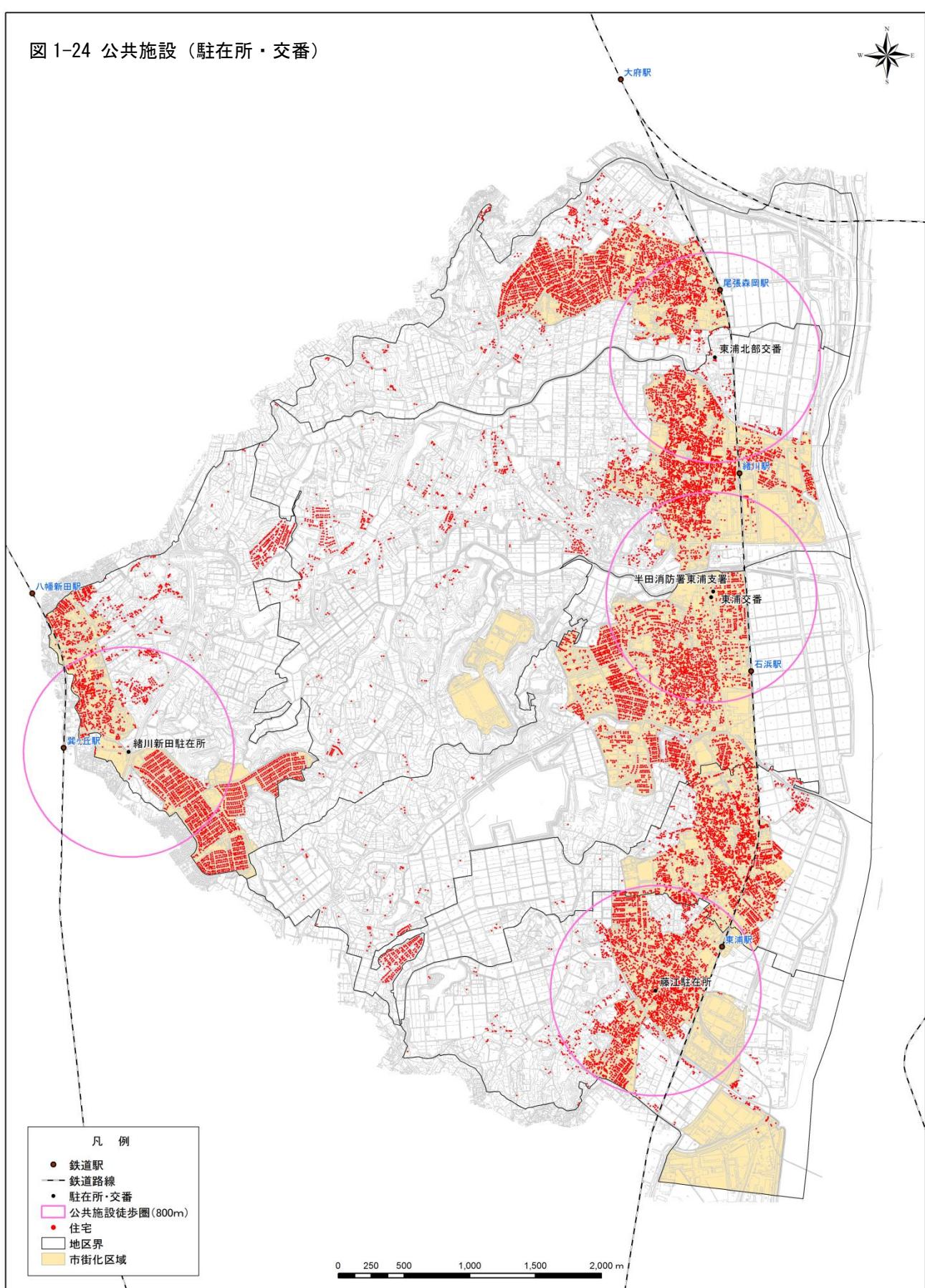
図 1-23 公共施設位置図

表 1-16 駐在所・交番の徒歩圏人口カバー率

対象施設	町総人口(人)	カバー人口(人)	人口カバー率(%)
駐在所・交番	49,800	22,802	45.8

人口資料：平成 22 年国勢調査

図 1-24 公共施設（駐在所・交番）



## 4. 公園・緑地

### (1) 公園・緑地の徒歩圏人口カバー率

#### 1) 他都市との比較

公園・緑地の徒歩圏（500m）人口カバー率を他都市と比較するにあたり、対象とする公園・緑地を「都市公園」とします。（ハンドブックより）

町内の都市公園の徒歩圏人口カバー率をみると、表 1-17 のとおり 68.6%となっています。これは全国の都市と比較すると、表 1-18 のとおり人口概ね 30 万人の都市平均 71% と同程度の水準です。コンパクトシティ推進市とされている富山市や熊本市および豊橋市、本町近隣の半田市や東海市および刈谷市は、いずれも高い水準となっており、本町はこれらと比べて低い水準となっています。

また、配置箇所については、緒川地区の市街地北部や藤江地区の市街地の一部がカバーされていません。

（40 頁 図 1-25 公園・緑地（都市公園）参照）

表 1-17 公園緑地（都市・公園）の徒歩圏人口カバー率

対象施設	町総人口 (人)	カバー人口 (人)	人口カバー率 (%)
公園・緑地（都市公園）	49,800	34,171	68.6

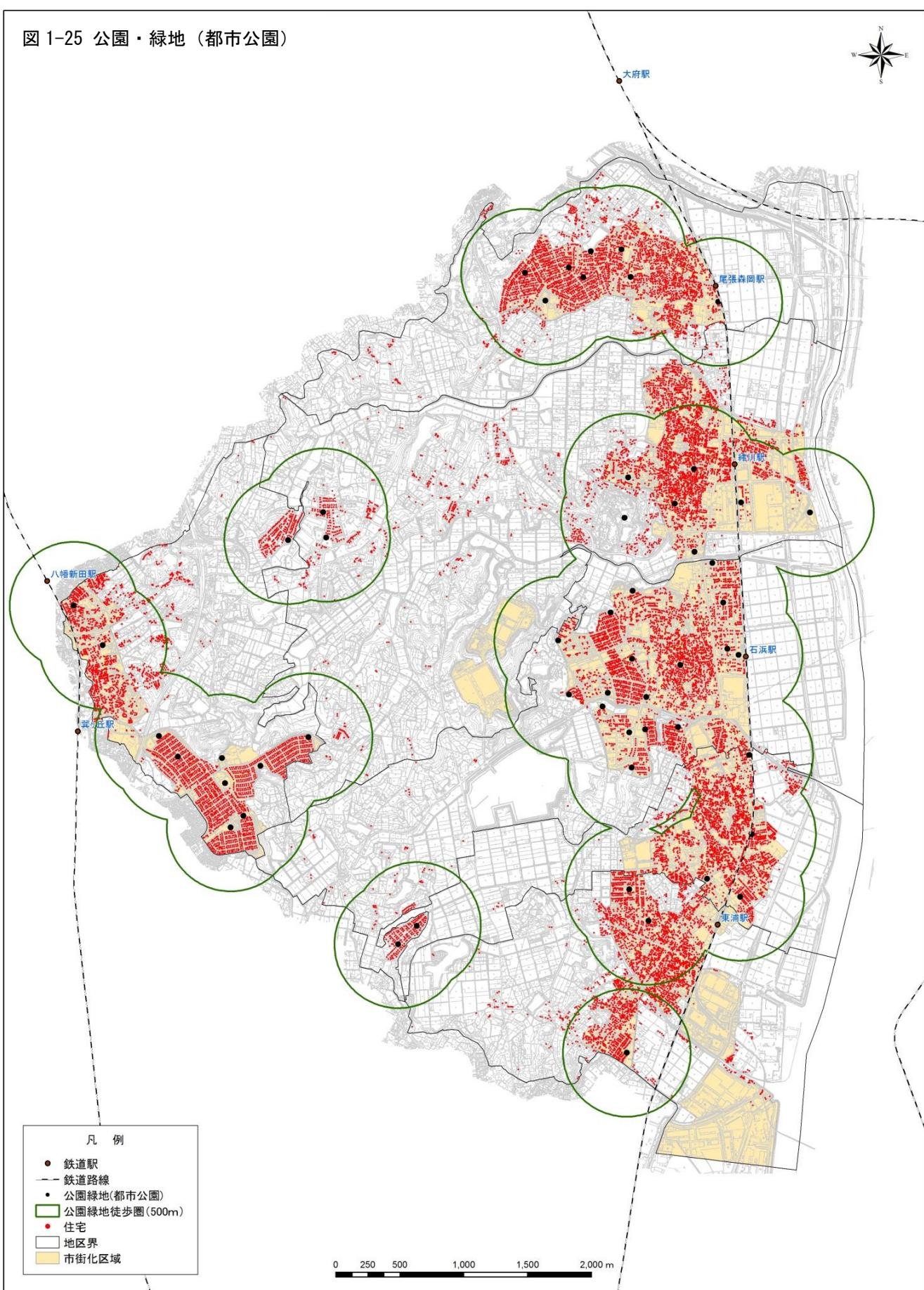
人口資料：平成 22 年国勢調査

表 1-18 各都市等の公園・緑地（都市公園）の徒歩圏人口カバー率

都市の種別	人口カバー率 (%)	人口規模 (人)
全國 平均	83	
三大都市圏 平均	92	
地方都市圏 平均		
政令市	92	
人口概ね 50 万人	89	
人口概ね 30 万人	71	
富山市	92.1	421,890
熊本市	95.0	734,474
豊橋市	90.9	376,665
豊川市	81.7	181,928
安城市	80.9	178,691
西尾市	47.7	165,298
小牧市	80.7	147,132
刈谷市	84.3	145,781
稻沢市	60.0	136,442
瀬戸市	77.0	132,224
半田市	82.7	118,828
東海市	90.0	107,690
名古屋市	99.7	2,263,894
東浦町	68.6	49,800

資料：国土交通省（東浦町以外）

図 1-25 公園・緑地（都市公園）



## 2) 東浦町の現状

本町の公園・緑地として、都市公園にふれあい広場を含めた徒歩圏人口カバーの状況をみると、

表 1-19 のとおり徒歩圏人口カバー率は 96.9% とほぼ全人口をカバーしています。

これは、都市公園が徒歩圏内に立地していない緒川地区の市街地北部や藤江地区の市街地の一部および市街化調整区域内の集落地などに、ふれあい広場が整備されていることによるものです。

(42 頁 図 1-26 公園・緑地（都市公園とふれあい広場）参照)

表 1-19 公園・緑地（都市公園）・ふれあい広場の徒歩圏人口カバー率

対象施設	町総人口 (人)	カバー人口 (人)	人口カバー率 (%)
公園・緑地（都市公園）	49,800	34,171	68.6
公園・緑地（都市公園・ふれあい広場）	49,800	48,278	96.9

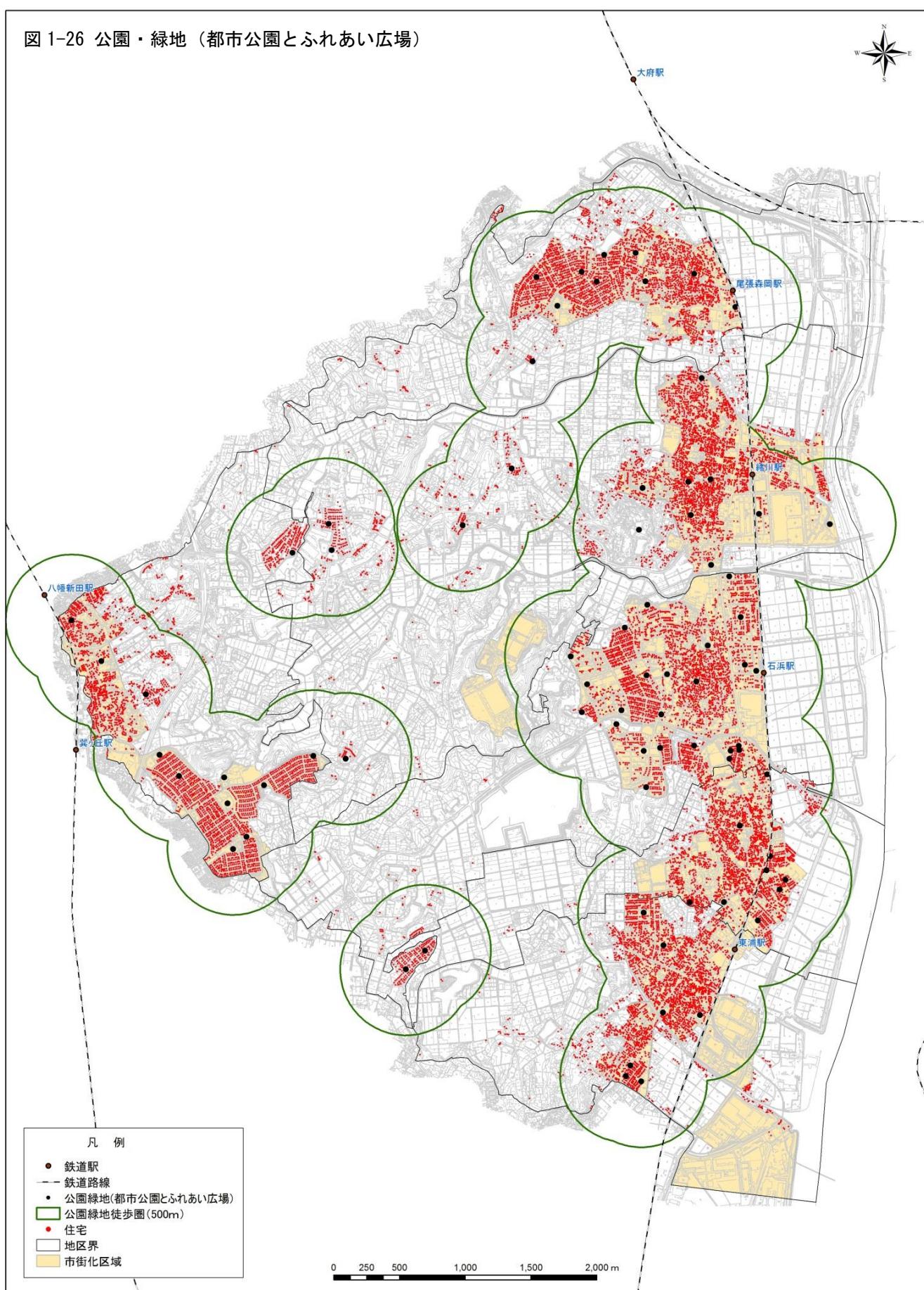
人口資料：平成 22 年国勢調査

## 3) 徒歩圏人口カバー率から見た課題と解決策

本町の都市公園の徒歩圏人口カバー率は 68.6% で、人口概ね 30 万人の都市平均の 71% とほぼ同程度の整備水準です。また、ふれあい広場を含めた徒歩圏人口カバー率は 96.9% で、ほぼ全人口をカバーしています。

のことから、本町における徒歩圏内の公園・緑地としてふれあい広場が重要な役割を担っており、その存続と質の向上が必要です。

図 1-26 公園・緑地（都市公園とふれあい広場）



余自